

CC-103CD

NATURAL SOUND STEREO COMPACT COMPONENT

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・コンパクトコンポーネントステレオCC-103CDをお買求めいただきまして、まことにありがとうございます。
CC-103CDの優れた性能を充分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくためにこの取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

お使いになる前に	
特長	1
豊かなオーディオライフのために	2
接続の前に	3
接続のしかた	4～7
各部の名称とはたらき	8～14
アンプ部の使い方	
ご希望のソースを再生するには	15
音質や音量を調整するには	16
サラウンドについて	17
マイクとソースのミキシング	18
チューナー部の使い方	
ラジオ放送やテレビ音声聞くには	19/20
デッキ部の使い方	
テープを再生するには	21/22
テープのリバース再生	23
テープのリレー再生	24/25
テープの自動頭出し演奏	26
録音するには	27/28
ダビングするには	29/30
CDプレーヤーの使い方	
CD(コンパクトディスク)の取り扱い方	31
CDを演奏するには	32～34
CDの選曲するには	35
CDのプログラム演奏	36/37
CDのリピート演奏	38
CDのインデックスサーチ	39
CDのタイマー演奏	39
ご参考	
カセットテープについて	40
デッキ部のお手入れ(末長くご愛用いただくために)	41
著作権について	42
故障かなと思ったら	43/44
参考仕様	45/46

特長

■倍速Wオートリバースデッキ

- テープのA面/B面に、連続して倍速ダビング(複写録音)をすることができます。
- TAPE 1のA面/B面を再生したあと、自動的にTAPE 2のA面/B面を、連続リレーで再生することができます。

■VHF/UHFステレオ音声多重テレビチューナー

VHF(1～12CH)、UHF(13～62CH)のテレビ音声を、ステレオ放送や音声多重(2ヶ国語)放送で聞くことができます。

■本格的防磁スピーカー

テレビの近くに置いて画像が乱れにくい防磁スピーカーを採用。

■高性能CDプレーヤー

リピート機能(全曲、一曲、プログラム)、プログラム機能、音出しサーチ、インデックス選曲などの機能を備え、コンパクトディスクに収められた情報を最大限に活かした多彩な演奏をお楽しみいただけます。

■サラウンド回路内蔵

劇場で聞く迫力と臨場感やコンサートホールでの音場感に似た音が楽しめます。

■音質重視設計

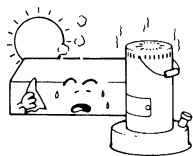
- 実用最大出力25W+25W(EIAJ)
- 5素子グラフィックイコライザー内蔵。

■VTR、ビデオディスク音声専用入力端子付

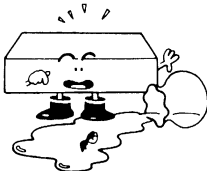
VTRやビデオディスクを迫力ある音で楽しめる音声専用入力端子を設けています。

豊かなオーディオライフのために

高温をさけて！

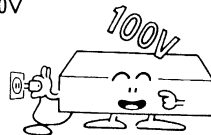


ほこり・水気をさけて！

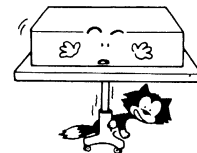


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V



不安定な場所をさけて！

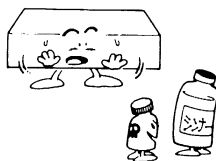


ヘッドの清掃を

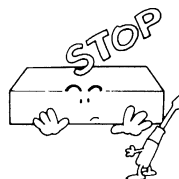


41ページの「テック部のお手入れ」を
ご覧ください。

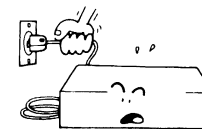
薬物厳禁



開けないで！



引っぱらないで！



取扱説明書はかならず
保管してください。



ファイルなど

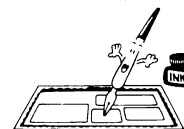
こわれた？



43/44ページの「故障かなと思ったら」
をご覧ください。

保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず
保証書の手続きを行なってください。保証書
に販売店名、購入日などがないと、保
証期間中でも万一サービスの必要がある場合
に実費をいただくことがありますので、充分
ご注意ください。



接続の前に — CDプレーヤーの輸送ネジを取りはずしてください。

●輸送ネジとは

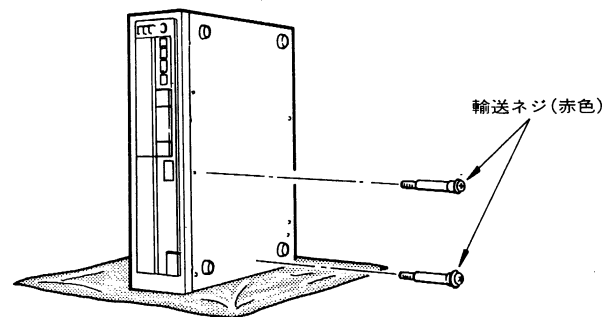
CDプレーヤー内部にあるレーザーピックアップ部を、輸送時の振動から守るために固定しているネジです。輸送ネジは本体の底面にあります。

●取りはずし

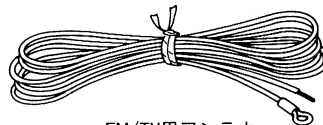
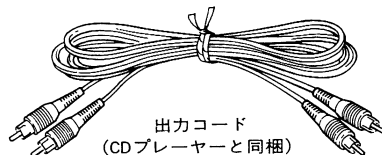
CDプレーヤーの電源を入れる前に、必ず輸送ネジの取りはずし作業を行なってください。図のように左側を下にして、(+)ドライバーで輸送ネジを取りはずします。その際、本体に衝撃を加えないように充分注意してください。(輸送ネジは、大切に保管しておいてください。)

●引越しなどで輸送するとき

輸送ネジを取り付けます。取り付けの際は、ディスクが取り出してあることを確認し、取りはずしの逆の手順で取り付け作業を行なってください。



付属品を確認してください。



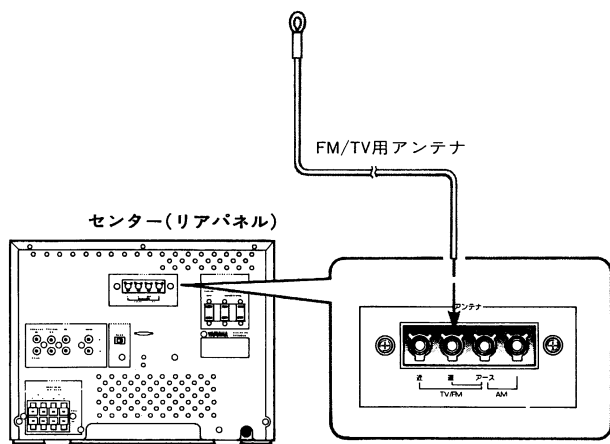
FM/TV用アンテナ
(センターと同梱)

接続のしかた

■アンテナをつなぐには 〔FM/テレビ音声〕

●付属のFM/TV用アンテナ

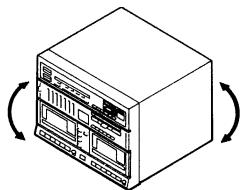
付属のFM/TV用アンテナをひずみや雑音の少ない最もきれいに聞こえる位置に、押しピンなどで固定します。



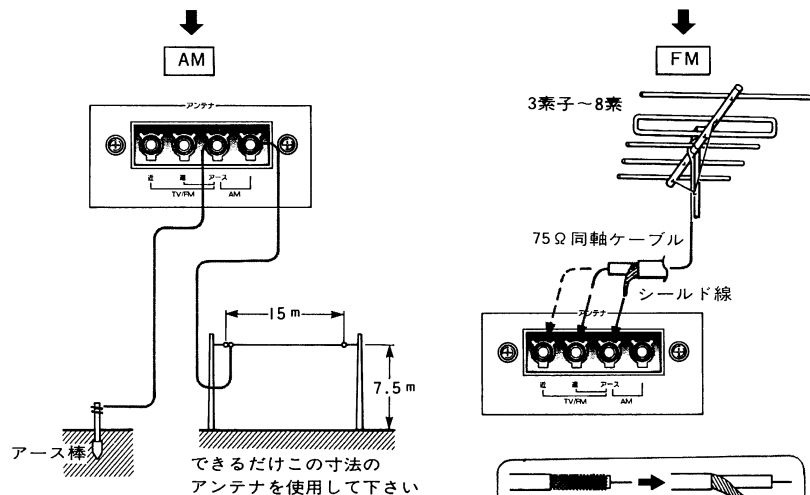
〔AM〕

●内蔵アンテナ

本体の向きを変えて、放送が最もきれいに聞こえるように置きます。ビルの中では窓の近くに置くと聞こえやすくなります。



それでも放送がよく聞こえない場合は



付属のアンテナを使用してもきれいに聞こえないときは、市販の屋外アンテナを屋根または地上に張ります。アース線をつなぐとさらに感度が良くなります。
※アース線は絶対ガス管につながらないでください。

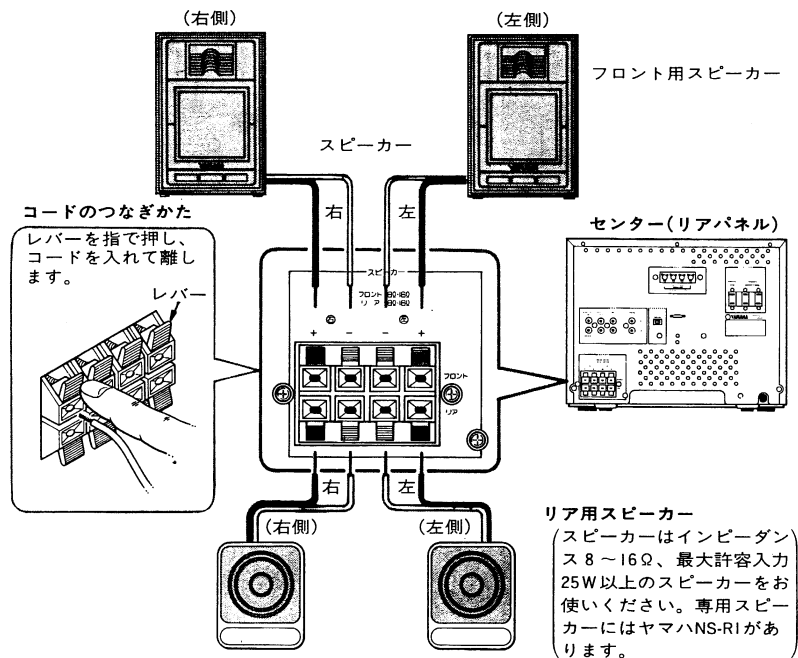
■屋外アンテナを立てるときは

- 送電線の下は危険ですので避けてください。
 - あまり高い所は落雷のおそれがありますので立てないでください。
 - 道路や線路の近くは雑音が入りやすいので、なるべく離してください。
- ※屋外アンテナをたてるときは、販売店におたずねください。

シールド線は図のようにねじり、アース端子に接続してください。

付属のアンテナを使用してもきれいに聞こえないときは、市販の屋外アンテナを使い、最もよく受信できる高さ、位置、方向に固定します。
※普通は“遠”の端子につないでおきますが、放送局の近くは電波が強いため音声がとぎれたり、雑音が入ることがありますので、そのときは“近”の端子につなぎます。

■スピーカーをつなぐには



付属のスピーカーをフロント用につなぎます。白い線が入っている方が⊖マイナスです。⊕プラス、⊖マイナスをまちがえないようにつないでください。

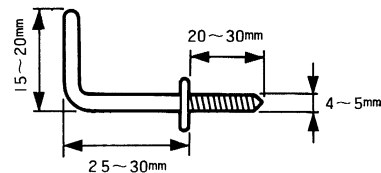
リア用に市販のスピーカーをつなぐと、本機のSURROUND機能により、劇場で聞く迫力やコンサートホールの臨場感をあなたのお部屋で楽しむことができます。インピーダンスが8Ω未満、最大入力25W未満のスピーカーはつながないでください。アンプ部の電気回路やスピーカーをいためることがあります。

※レコードプレーヤーとスピーカーは離して置いてください。近すぎるとハウリング(ワーンという音)をおこすことがあります。

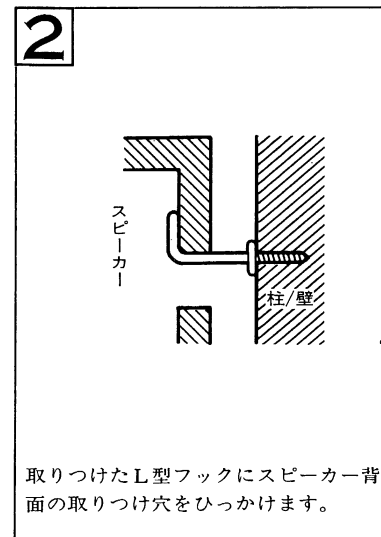
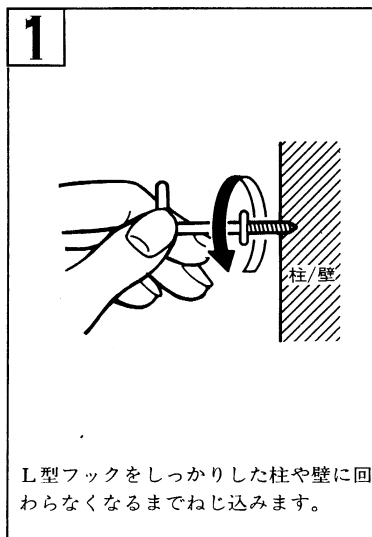
- スピーカーコードをショートさせたり、インピーダンスの低いスピーカーをつながないでください。故障の原因になります。

◆スピーカーを壁にかけて使うには

- 下の図で表わすような寸法の市販のL型フックを使用してください。

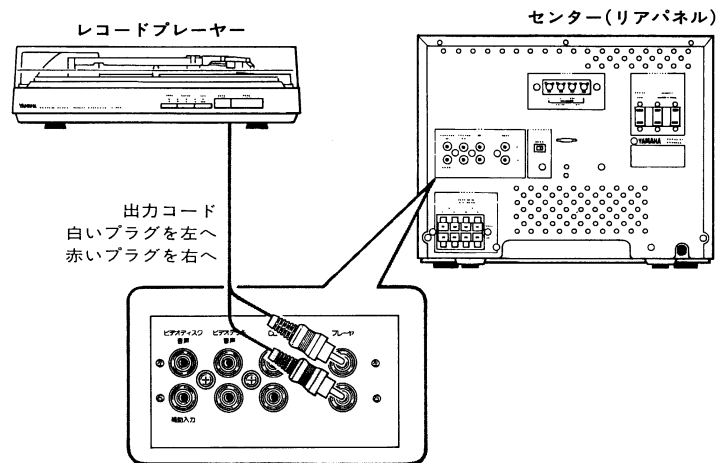


- 取りつける壁の種類によっては(コンクリートなどの場合)、L型フックが使えない場合があります。
- 団地などにお住まいの方は、取りつける前に家屋管理者の許可を得るようにしてください。
- 薄い壁や、内サンのないベニヤ張りの壁、しっくい壁などには取りつけないでください。(取り付け後、充分強度を確認してからお使いください。)
時間がたつとL型フックが抜けて、スピーカーが落ちることがあり大変危険です。



■レコードプレーヤーをつなぐには

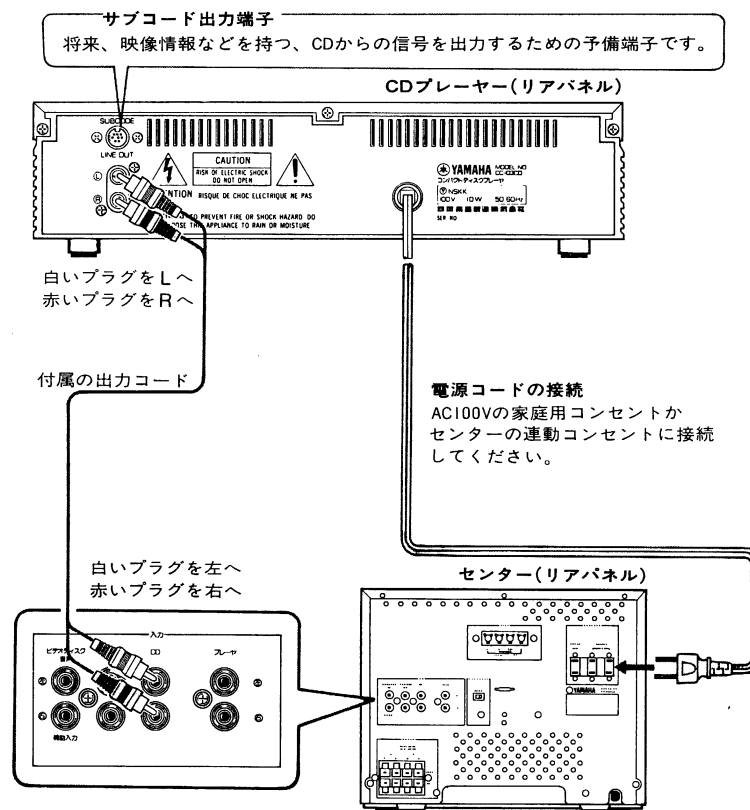
- POWERスイッチを「OFF」にし、プレーヤーの出力コードをセンター(8ページ)のプレーヤー端子へ接続します。このとき、コードの左、右を正しく接続してください。



レコードプレーヤーは、ヤマハP-103(別売品)をお使いください。
その他のプレーヤーをご使用の際は、フォノイコライザー内蔵のものをお使いください。

■CDプレーヤーをつなぐには

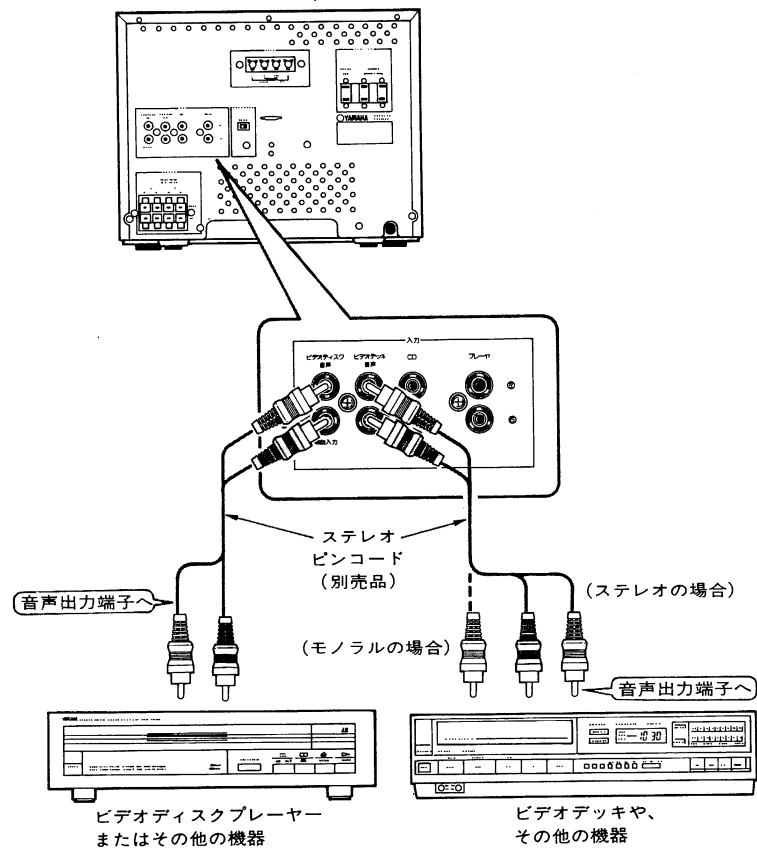
- 接続する前に、輸送ネジが取りはずしてあることを確認してください。
- 接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。
- 本機の出力は、センター(8ページ)のプレーヤー端子に接続しないでください。



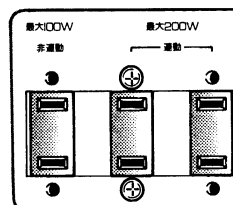
■ビデオディスクプレーヤー/ビデオデッキをつなぐには

- 接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。

センター(リアパネル)

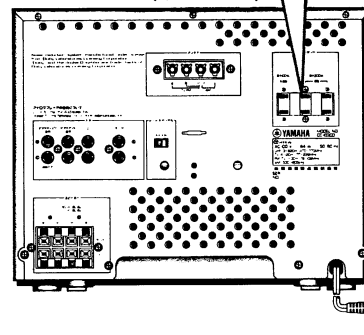


■電源コードをつなぐには



この製品と組み合わせて使う機器の電源コードをつなぐことができます。
連動コンセントは接続機器の電源をセンターのPOWERスイッチでON/OFFできますが、非連動コンセントはできません。
最大300W(連動200W、非連動100W)までつなぐことができます。

センター(リアパネル)



家庭用100V ACコンセントへ。50Hz、60Hzのどちらでも使えます。

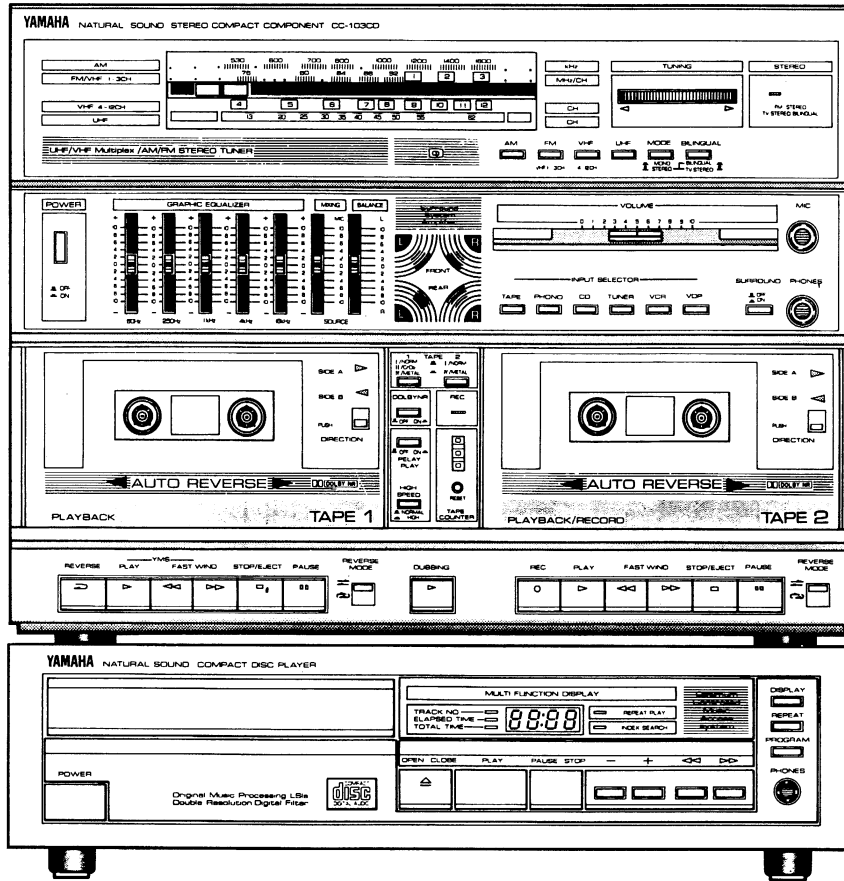
POWERスイッチを「OFF」にしたあとでつなぎます。

使用中にスピーカーから「ブーン」という音(ハム)が出るときは、差し込みプラグの左右を逆につなぎかえてみてください。

- 長い間お使いにならないときは、電源スイッチを「OFF」にしたあと差し込みプラグをコンセントから抜いておきましょう。

各部の名称とはたらき

●本機は、センター(チューナー、アンプ、デッキ)とCDプレーヤーとスピーカーによって構成されています。

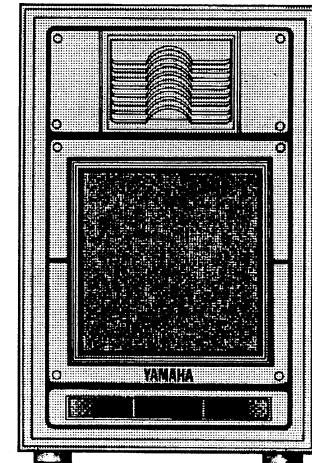


チューナー部

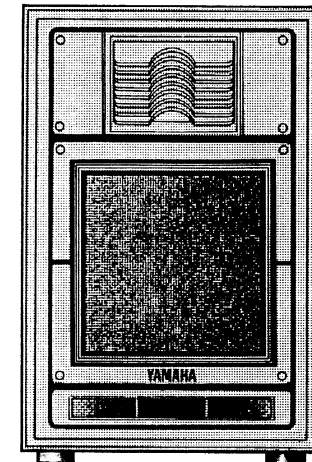
アンプ部

デッキ部

CDプレーヤー



スピーカー(左側)



スピーカー(右側)

チューナー部

バンド切換ボタン

バンドを選択するボタンです。

- AM放送を聞くときは、“AM”にします。
- FM放送や、テレビの1～3チャンネルを聞くときは“FM”にします。
- テレビの4～12チャンネルを聞くときは、“VHF”にします。
- テレビの13～62チャンネルを聞くときは、“UHF”にします。

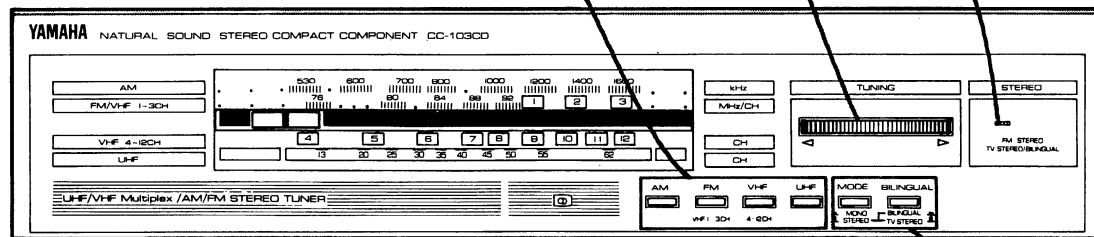
チューニング TUNINGツマミ

ラジオ放送やテレビ音声を選局するときに使います。

FM/TV STEREO BILINGUAL(2ヶ国語)インジケーター

FMやテレビの放送局が、ステレオ放送や音声多重放送をしているとき、その放送を受信すると、このインジケーターがつかまります。

- ステレオ放送や、音声多重放送を受信しているときに、**モード**ボタンを“**MONO**”にしてもインジケーターは消えません。



モード **バイリンガル**
MODE/BILINGUAL(モード/2ヶ国語)ボタン
FM放送やテレビ音声のステレオ、モノラルやテレビの音声多重(2ヶ国語)放送のとき、主音声、副音声を切換えます。

アンプ部

パワー POWERスイッチ

「ON」にすると電源が入ります。

グラフィック イコライザー GRAPHIC EQUALIZERツマミ

5つのつまみでお好みの音質に調整します。つまみを上に動かすと、その周波数付近の音が強くなり、下に動かすと弱くなります。すべてセンター(“0”)にするとフラットになります。

ミキシング MIXINGツマミ

マイクでミキシングするときに、マイクとソースの音量を調整します。

- “SOURCE”の方へ動かすとマイクの音が小さくなります。
- “MIC”の方へ動かすとソースの音が小さくなります。

通常はセンター(“0”)にしておいてください。

バランス BALANCEツマミ

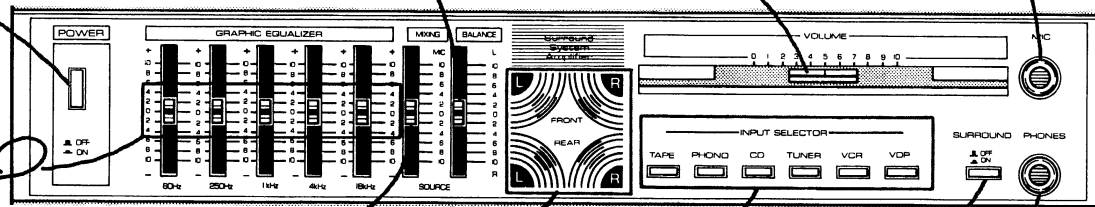
スピーカーやヘッドホンからでる左右の音の大きさのバランスを調整します。

ボリューム VOLUMEツマミ

音の大きさを調整します。右に動かすと大きくなり、左に動かすと小さくなります。

マイク MIC端子

マイクをつなぎます。



サラウンド SURROUNDインジケーター

SURROUNDボタンをONにすると4つのインジケーターがつき、OFFにするとフロント側の2つのインジケーターがつきます。

インプット INPUT SELECTOR セレクター ボタン

ソースを選択するボタンです。

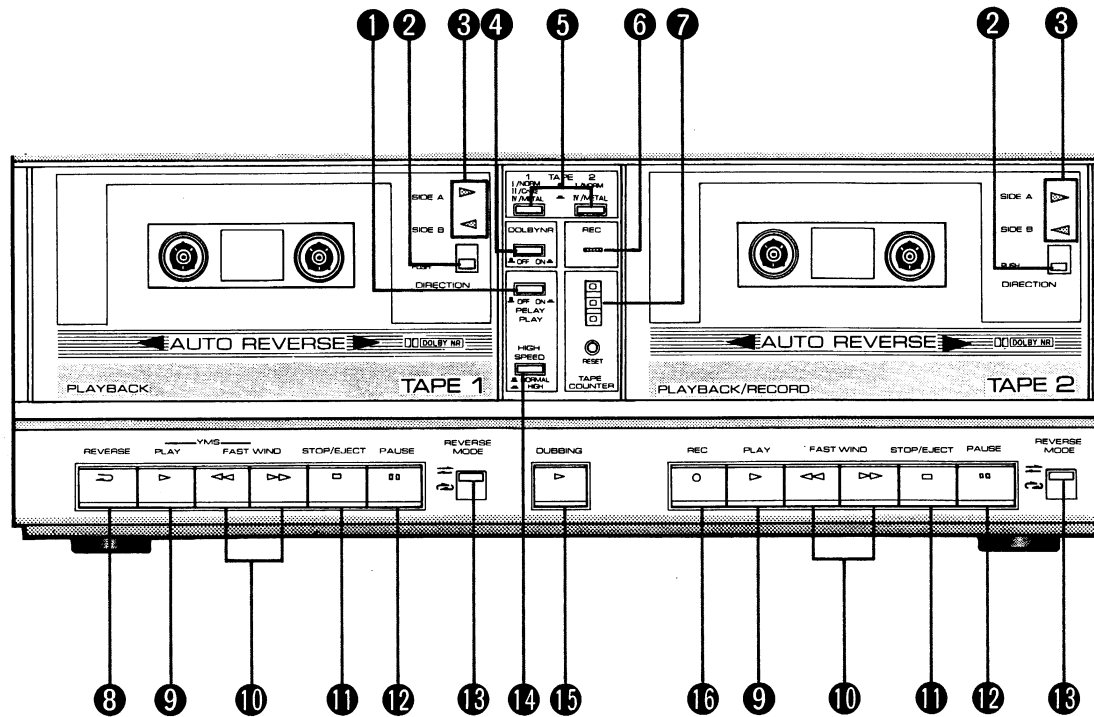
ホーンズ PHONES端子

ヘッドホンをつなぎます。

サラウンド SURROUNDボタン

劇場で聞く迫力と臨場感に似た音を楽しみたいときにこのボタンをONにします。(サラウンドを楽しむときは、さらにもう2台のスピーカーを接続してください。)

デッキ部



① ^{リレー}RELAY ^{プレイ}PLAY ボタン

^{テープ}TAPE 1から^{テープ}TAPE 2へ連続再生するときに
"ON"にします。

② ^{ディレクション}DIRECTION ボタン

録音や再生する面を切換えます。
※TAPE 1は再生のみ。

③ ^{サイド}SIDE A / ^{サイド}SIDE B インジケーター

再生している面を表示します。
A面を再生中はSIDE A、B面を再生中はSIDE B
が点灯します。

④ ^{ドルビー}DOLBY NR ボタン

DOLBY NRシステムを動かせるときに"**■** ON"に
します。

⑤ ^{テープ}TAPE ^{セレクター}SELECTOR ボタン

^{テープ}TAPE 1、^{テープ}TAPE 2で使うテープの種類に合わせま
す。

⑥ ^{レック}REC インジケーター


⑩ ^{レック}REC ボタンを押すとつきます。

⑦ ^{テープ}TAPE ^{カウンター}COUNTER

^{テープ}TAPE 2を動かすと数字が変わります。
下の^{リセット}RESET ボタンを押すと、"0 0 0"になります。

⑧ ^{リバーズ}REVERSE ボタン

A面とB面の両面を1回だけ連続して聞くときに押
します。

- ^{プレイ}PLAY ボタンも同時におります。再生中には押せ
ません。
- ^{リバーズ}REVERSE MODE スイッチがの位置のとき
だけこの機能がはたらきます。

⑨ ^{プレイ}PLAY ボタン

テープを聞くときに押します。

⑩ ^{ファースト}FAST ^{ワインド}WIND (早送り/早戻し) ボタン

テープを早送り/早戻しするときに押します。
(TAPE 1では再生中に押すと、テープの自動頭出し
動作(YMS)になります。)

⑪ ^{ストップ}STOP / ^{イジェクト}EJECT ボタン



テープを止めるときに押します。テープが止まって
いるときに、このボタンを押すとカセットホルダー
があきます。

⑫ ^{ポーズ}PAUSE ボタン

再生や録音を一時的に停止するときに押します。

⑬ ^{リバーズ}REVERSE MODE ^{モード}スイッチ

片面演奏と両面連続演奏を切換えるときに押します。

- : 片面演奏
- : 両面演奏

⑭ ^{ハイ}HIGH ^{スピード}SPEED ボタン

ダビングのスピードを切換えるボタンです。
定速でダビングするときは"**■** ^{ノーマル}NORMAL"に、倍速
でダビングするときは"**■** ^{ハイ}HIGH"にします。

⑮ ^{ダビング}DUBBING ボタン

テープをダビングするときに押します。

⑯ ^{レック}REC ボタン

録音するときに押します。
(^{プレイ}PLAY ボタンも同時におります。)

CDプレーヤー

パワー POWERスイッチ

CDプレーヤーの電源をON、OFFするスイッチです。あらかじめ、CDをディスクトレイにセットしておけば、電源が入ると同時に演奏を始めることができます。別売のタイマーを使用して、タイマー演奏もお楽しみいただけます。(☞39ページ)

ディスクトレイ

CDを入れるところです。OPEN/CLOSEキーを押すと開き、もう一度押すと閉まります。ディスクトレイを軽く手で押すことによっても閉められますし、PLAYキーを押しても閉まります。電源が入った状態でディスクトレイの開閉が可能となります。

ディスプレイ DISPLAYキー

ディスプレイの表示内容を切り替えるキーです。ストップ時は3種類、演奏時とポーズ時は2種類の表示切り替えとなります。TOTAL TIME(総演奏時間)はストップ時(プログラム演奏のストップも含む)のみ表示されます。なお、プログラムされているときは、プログラムされている曲の総演奏時間を表示します。

マルチファンクションディスプレイ MULTI FUNCTION DISPLAY

(☞次ページ)

リピート REPEATキー

CD全体または、プログラムした曲を繰り返し演奏するときに使います。

プログラム PROGRAMキー

プログラムをセットするときと、その内容をチェックするときに使います。
※プログラムは、ストップ状態のときのみ可能となります。

ホーンズ PHONESジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。

サーチ操作キー

(☞次ページ)

オープン/クローズ OPEN/CLOSEキー

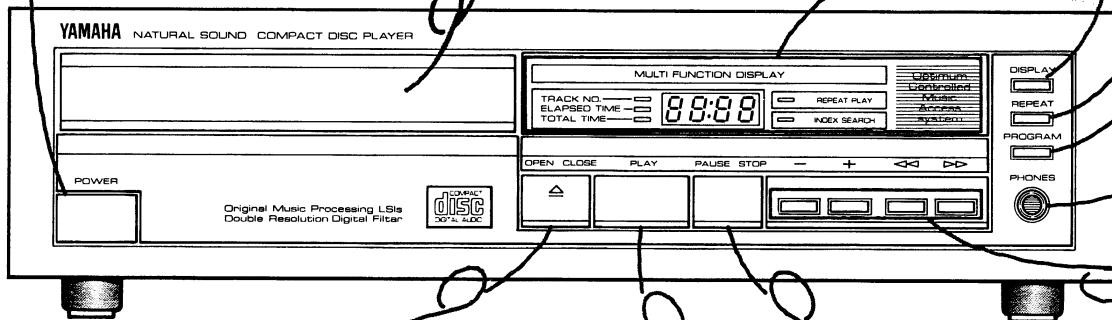
このキーを押すとディスクトレイが開き、もう一度押すと閉まります。

プレイ PLAYキー

演奏をスタートさせるキーです。

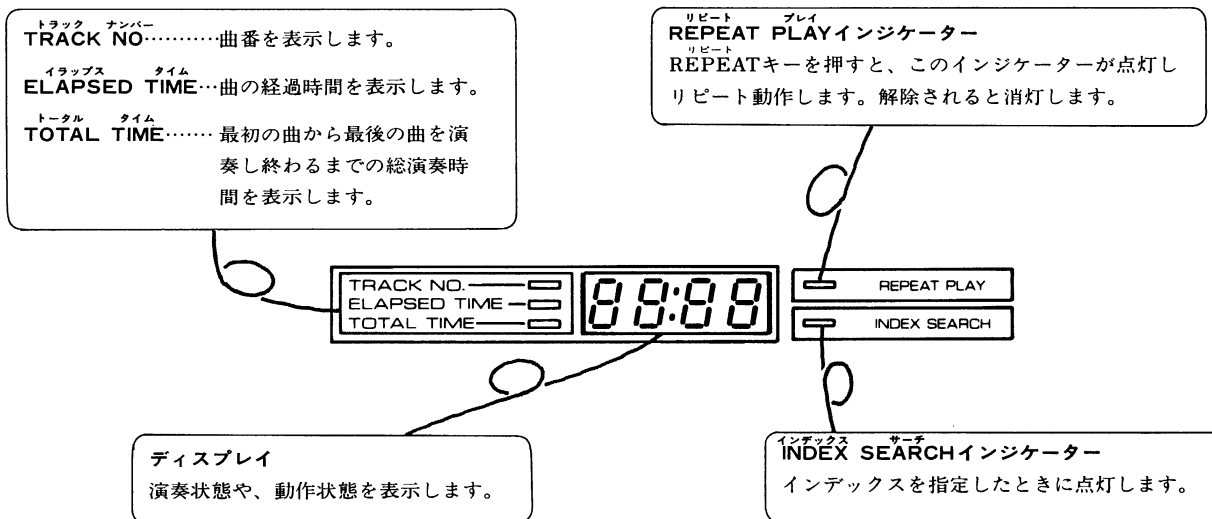
ポーズ/ストップ PAUSE/STOPキー

演奏している所でポーズしたり、演奏をストップするときに使います。



マルチ ファンクション ディスプレイ
MULTI FUNCTION DISPLAY

いろいろな演奏状態および動作状態を表示します。



サーチ操作キー

お好みの曲やフレーズを探すときに使用します。
インデックスサーチをするときにも使用します。

	演奏時	ポーズ時(曲の途中)	選曲時
+	次の曲の頭から演奏	次の曲の頭でポーズ	次の曲の頭でストップ
-	その曲の頭から演奏	その曲の頭でポーズ	前の曲の頭でストップ
▷▷	早送り(音出しサーチ)	早送り(音無し)	インデックスNO.が増える
◁◁	早戻し(音出しサーチ)	早戻し(音無し)	インデックスNO.が減る

※プログラムされていてストップ状態のときは、サーチ操作キーは機能しません。

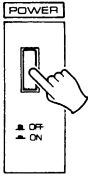
※プログラムされていて演奏またはポーズしているときに、“+”または“-”を押すと、プログラムされている曲番どおりに頭出しを行ないます。

※“+”と“-”は、押し続けると連続的に変化します。


※“◁◁”と“▷▷”は、3秒以上押し続けると自動的に高速サーチとなります。

ご希望のソースを再生するには

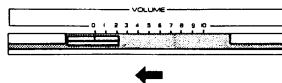
1 本機および希望ソースの電源を入れます。



2 MIXINGツマミを“0”の位置にします。



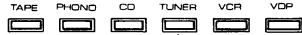
3 VOLUMEツマミを“0”にします。



4 ご希望のソースをINPUT SELECTORボタンで選びます。

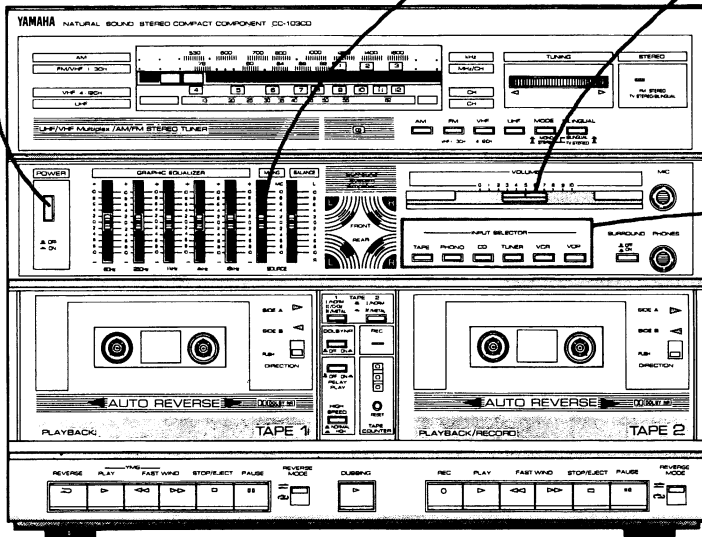
INPUT SELECTOR

TAPES PHONO CD TUNER VCR VDP



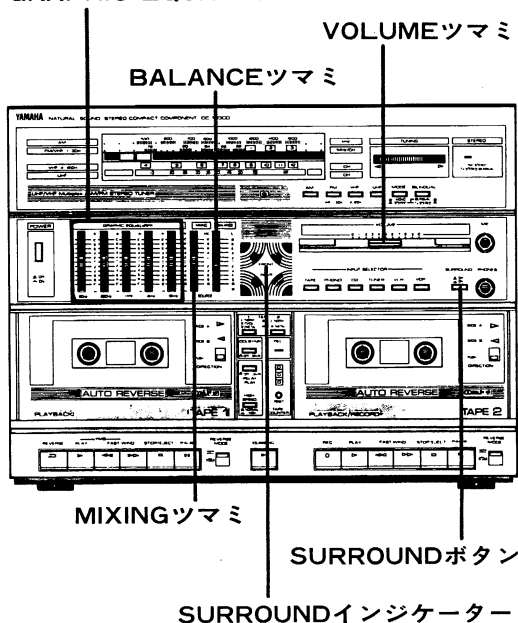
5 希望ソースの再生を始めます。
(希望ソースの操作は、各々の取扱説明書を参照して行なってください。)

6 お好みに合わせて音質、音量を調節してください。
(※P.16ページ)



音質や音量を調整するには

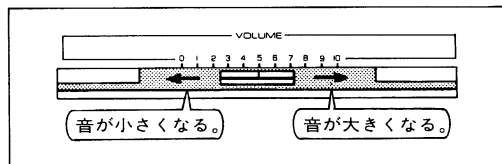
GRAPHIC EQUALIZERツマミ



■VOLUMEツマミ

スピーカーやヘッドホンからでてくる音の大きさを調整します。

右に動かすと大きくなり、左に動かすと小さくなります。



■GRAPHIC EQUALIZERツマミ

5つのツマミでお好みの音質に調整します。

ツマミを上動かすと、その周波数付近の音が強くなり、下動かすと弱くなります。

すべてセンター("0")にすると、フラットになります。

60Hz

音に安定感を加え、ベースギターやドラムなどの低音部の魅力をひきだす音域です。

250Hz

人の音や音楽再生の基礎になる音域で、強調させるとパンチのある音になります。

1kHz

ピアノや管楽器または人の高い声を調節する音域で、強調させるとハリのある音になります。

4kHz

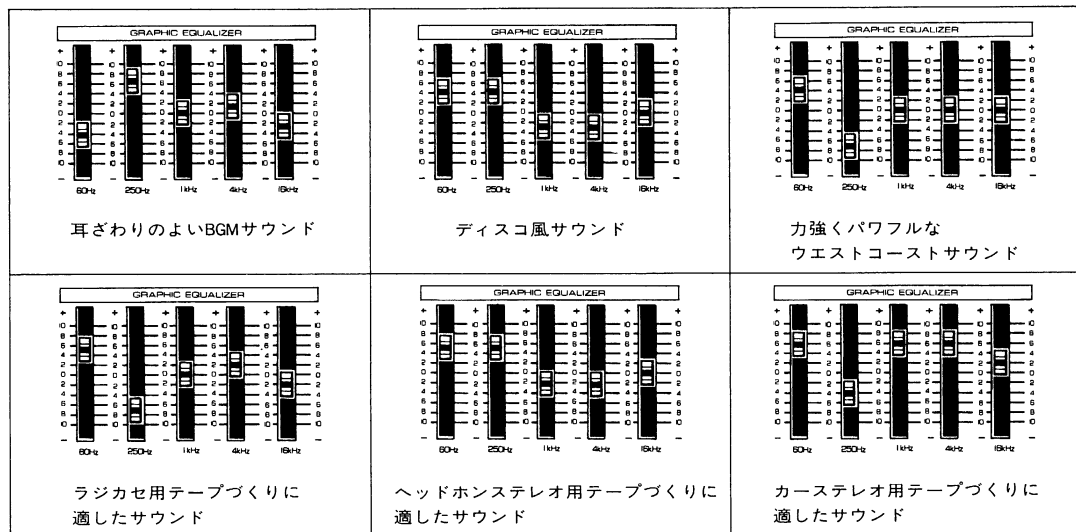
バイオリンなど弦楽器のハリ、華やかさを調節でき、人の耳には刺激的に感じる音域です。

16kHz

シンバルやトライアングルなどの、ハグレの良い澄んだ高音部の響きが調節でき、人の耳には刺激的に感じる音域です。

このグラフィックイコライザーは、聞くときだけではなく、録音するときにも働きます。

具体的な使用例



サラウンドについて

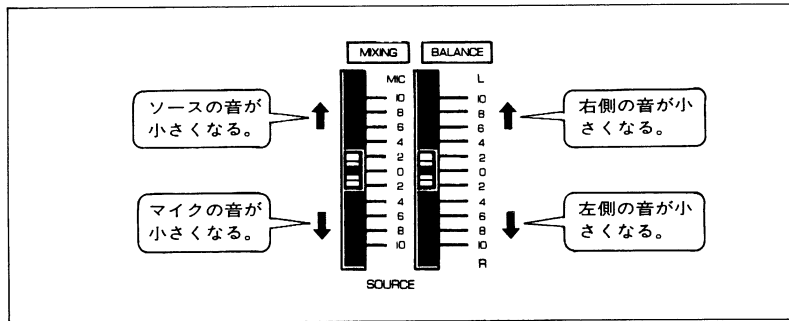
■BALANCEツマミ

スピーカーやヘッドホンからでる左右の音の大きさのバランスを調整します。通常はセンター("0")にしておきます。

- リア用のスピーカーには動きません。

■MIXINGツマミ

マイクでミキシングするときに、MICとSOURCEの音量を調整します。



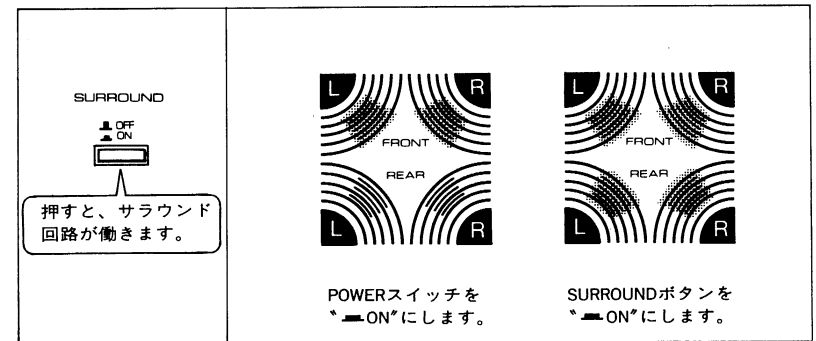
- マイクを使わないときは、MIXINGツマミを"0"の位置にしてください。

劇場で聞く迫力と臨場感やコンサートホールでの音場感に似た音を楽しみたいときにこのボタンを押します。

■SURROUNDインジケーター

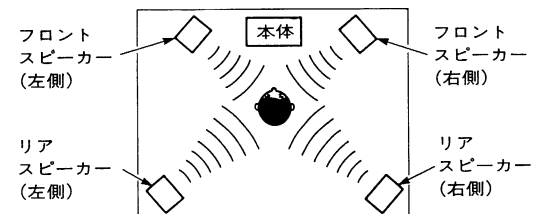
POWERスイッチを"ON"にするとFRONT側がつかます。このあと、SURROUNDボタンを"ON"にすると、REAR側もつかます。

(SURROUNDボタンを"OFF"にしてもリアスピーカーから音が出ます。)



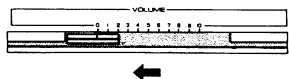
リアスピーカーの置きかた

- サラウンドを楽しむときは、さらにもう2台のスピーカーを接続してください。(専用スピーカーにはヤマハNS-R1があります。)

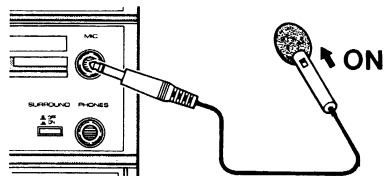


マイクとソースのミキシング

1 VOLUMEツマミを
"0"にします。



2 マイクをつなぎます。
マイクのスイッチを"ON"にします。



3 お望みのソースを演奏します。

CDのとき

CDを演奏します。

(☞31ページ)

ラジオ放送やテレビ音声のとき

ラジオ放送やテレビ音声を受信します。

(☞19ページ)

テープのとき

TAPE 1を再生します。

(☞21ページ)

- ソース側の音の大きさは、VOLUMEツマミで調整します。
- 倍速ダビング中はマイクを使わないでください。

4

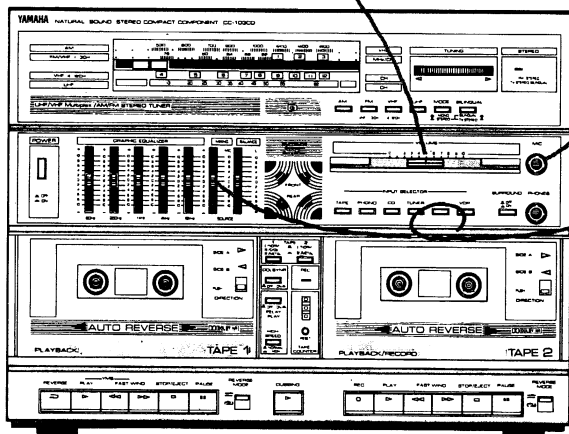


マイクに向かって歌いながらマイク
の音とラジオ放送やテレビ音声の音
量のバランスを MIXINGツマミで調
整します。

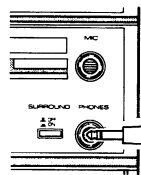
- 録音したいときは、27ページの操作をします。

お願い

- マイクは標準プラグ(直径6.3mm)付で、インピーダンス400Ω～3kΩ、感度-74dB前後のものをお使いください。
- マイク音はステレオになりません。(左右のスピーカーの中央から音が聞こえます。)
- 「キーン」というハウリングが起きたときは VOLUMEツマミを下げるか、マイクをスピーカーから遠ざけます。
- 感度の高いマイクや無指向性マイクを使うと、ハウリングを起こしやすくなります。



ヘッドホンで音を聞くには

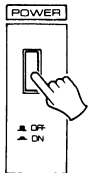


インピーダンス8Ω～32Ω、ステレオ標準プラグ(直径6.3mm)付ヘッドホンをつなぎます。スピーカーの音は聞こえなくなります。


音の大きさは VOLUMEツマミで調整します。

ラジオ放送やテレビ音声を聞くには


1 電源を入れます。



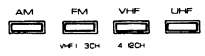
2 MIXINGツマミを
"0"の位置にします。



3 INPUT SELECTOR ボタンの "TUNER" を押します。

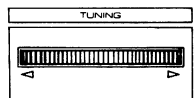


4 バンド切換ボタンで希望の放送バンドに切換えます。*1

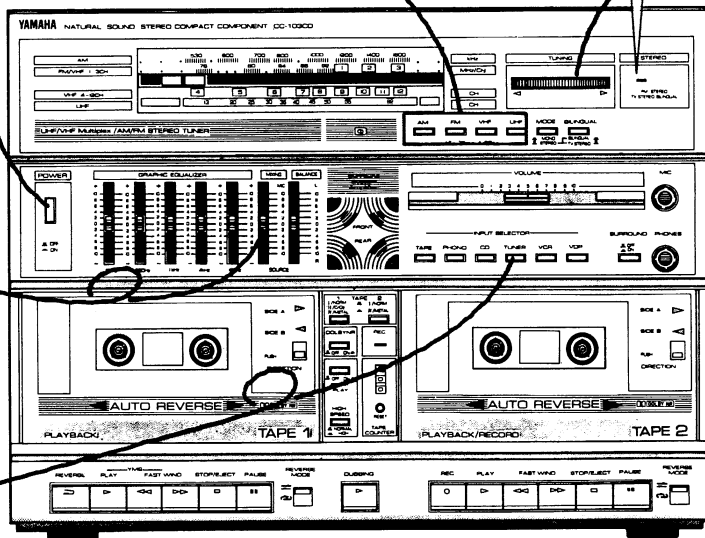


FMやテレビのステレオ放送、テレビの音声多重放送を受信するときは、次ページを参照してMODE/BILINGUALボタンを操作してください。





5 放送局を選びます。



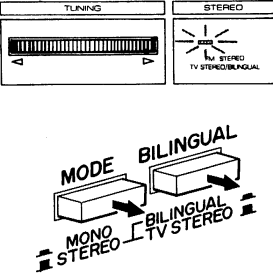
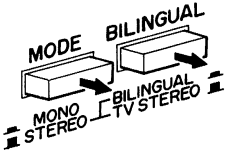
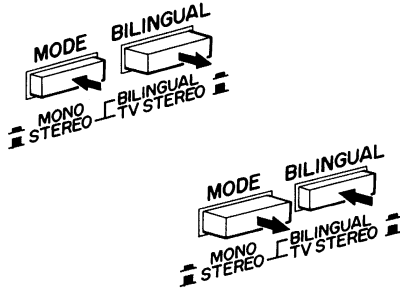
6 お好みに合わせて音質、音量を調整してください。
(⇒ 16ページ)



***1 バンド切換ボタンについて**

AM放送を聞くときは	FM放送や、テレビの1~3チャンネル (VHF放送) の音声を聞くには
	
テレビの4~12チャンネル (VHF放送) を聞くときは	テレビの13~62チャンネル (UHF放送) を聞くときは
	

■MODE/BILINGUAL(モード/2ヶ国語)ボタンについて

FMステレオ放送を受信したとき	テレビのステレオ放送を受信したとき	テレビの音声多重放送を受信したとき
 <p>MODEボタンを「■STEREO」にします。 電波が弱く雑音が多いときは「■MONO」にします。 (ステレオでは聞けません聞きやすくなります。) 「■STEREO」の位置では、電波が弱い場合ミュート ィングが働いて、音声が開聞こえないことがあります。</p>	 <p>MODEボタンを「■STEREO」に、BILINGUALボタ ンを「■TV STEREO」にします。 電波が弱く雑音が多いときはMODEボタンを「■ MONO」にします。(ステレオでは聞けません聞きや すくなります。)</p>	 <p>MODEボタンを「■MONO」にすると、主音声だけ聞こ えます。 (BILINGUALボタンを押しても関係ありません。) MODEボタンを「■STEREO」に、BILINGUALボタ ンを「■BILINGUAL」にすると、左スピーカーから主 音声、右スピーカーから副音声が開聞こえます。 BALANCEつまみで主音声と副音声のバランスを調整 します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主音声……番組本来の音声(日本語など) ●副音声……番組をより充実させるための音声(外国 語や、主音声を補うための解説など)

- テレビのステレオ放送や音声多重放送を受信したとき、主音声と副音声がまざって聞こえたり、右のスピーカーから聞こえる音が小さくなったときは、BILINGUALの切換えが反対になっていますので、正しく設定しなおしてください。
- CDプレーヤーのPOWERスイッチが入っていると、ラジオ放送やテレビ音声の受信に妨害を与えることがあります。そのときは、CDプレーヤーの電源スイッチを切ってください。

テープを再生するには

1 電源を入れます。

2 MIXINGツマミを
"0"の位置にします。

3 INPUT SELECTORボタンの
"TAPE"を押します。

5

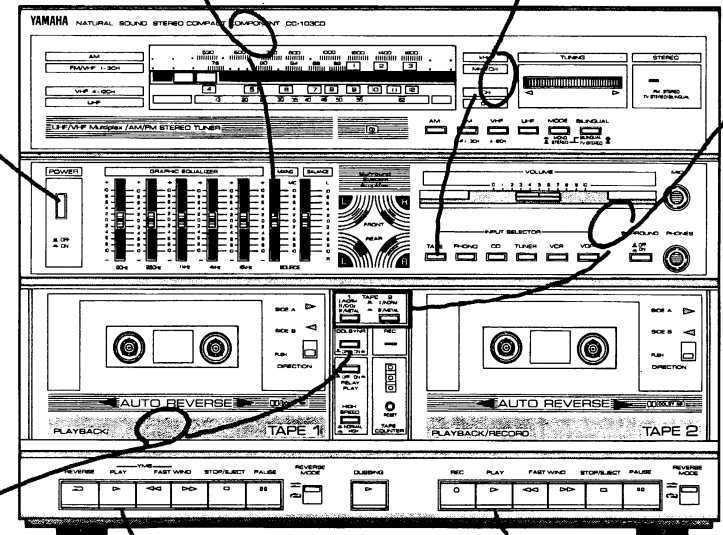
1. STOP/EJECTボタンを押します。

2. お聞きになりたい面を手前にしてテープを入れます。

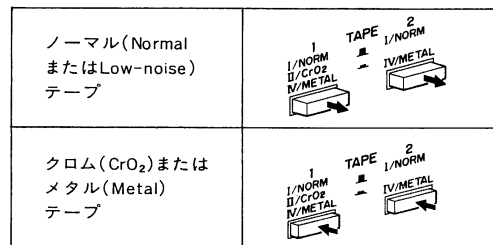
3. カセットホルダーを閉じます。

6

ドルビー NR システムで録音されたテープ("Dolby NR"や"NR"のマークのついたミュージックテープなど。)を聞くときは、ドルビーNRボタンを"ON"にします。



4 TAPE SELECTORボタンを使うテープの種類に合わせます。



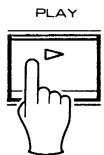
■テープ再生を止めるには

- ①STOP/EJECTボタンを押してテープの再生を止めます。
- ②もう一度STOP/EJECTボタンを押すとカセットホルダーが開きますので、カセットテープを取り出してください。

■テープ再生を一時停止するには

- ①PAUSEボタンを押して、テープ走行を一時停止します。
- ②再びテープ再生を行なうときは、PAUSEボタンをもう一度押します。

7 テープを入れた方のPLAYボタンを押します。



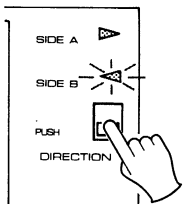
8 テープを入れた方のREVERSE MODEスイッチとDIRECTIONボタンを、ご希望の位置に切換えます。
(☞11/12ページ)

9 お好みに合わせて音質、音量を調節してください。
(☞16ページ)

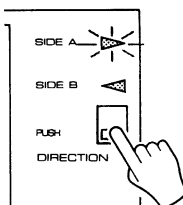
テープのリバース再生

■今聞いている面の反対側を聞くには

DIRECTION ボタンを、テープ再生中か再生を一時停止しているときに押します。



A面再生中にB面を聞きたいときは、DIRECTION ボタンを押します。「◁」のインジケーターがつかます。



B面再生中にA面を聞きたいときは、DIRECTION ボタンを、もう一度押します。「▷」のインジケーターがつかます。

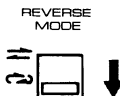
- REVERSE ボタンを押してB面を再生しているときに DIRECTION ボタンを押すと、自動的に停止します。

■ REVERSE MODE スイッチについて

REVERSE MODE スイッチは、テープを再生中でも、再生を始める前でも切換えることができます。



この位置にすると、今聞いている面の再生が終わると、自動的にテープが止まります。



この位置にすると、くりかえしてA面・B面を再生します。テープを止めたいときは、STOP/EJECT ボタンを押します。

■ A・B両面を1回だけ連続して聞くには (TAPE 1)

TAPE 1の REVERSE ボタンを使うと、A面からB面*1へ再生したあと、自動的に停止させることができます。

(B面からA面へはできません。)

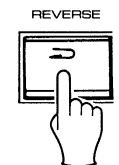
1



「◁」の位置にします。

(「▷」の位置では片面しか再生しません。)

2



TAPE 1が停止しているときに REVERSE ボタンを押します。(PLAY ボタンも同時におります。)

- テープを再生中は REVERSE ボタンは押せません。

3

A面の再生が終了と、自動的にB面を再生し、B面を最後まで再生すると、自動的に停止します。

*1:取扱説明書内では、説明をわかりやすくするために、手前に見える面を「A面」、反対の面を「B面」と表現しています。カセットテープを入れるときに、テープのA面を手前にして入れると本文の説明方法と一致します。

メモ

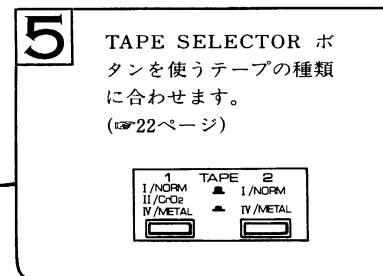
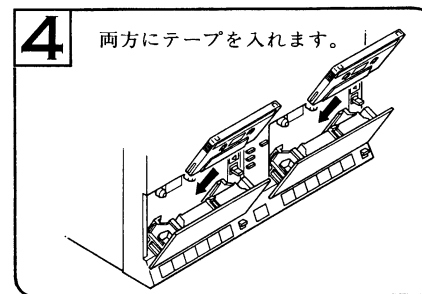
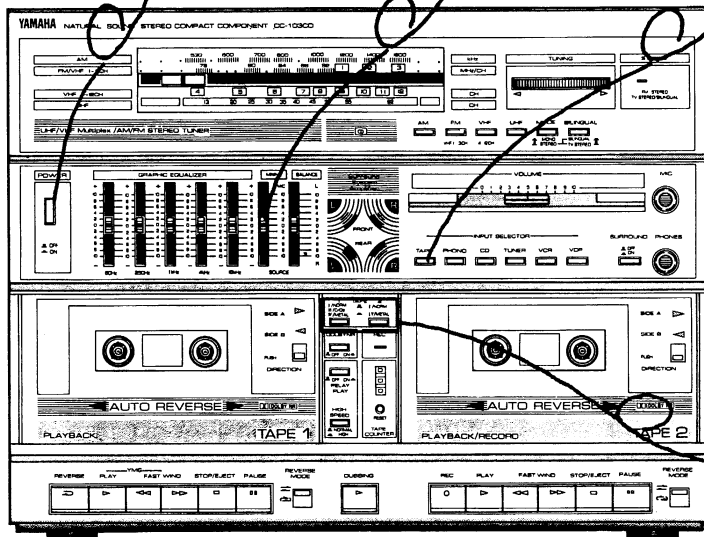
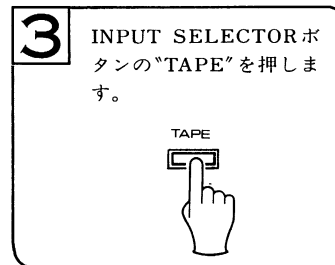
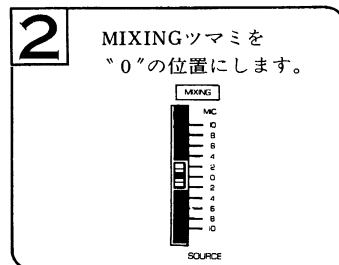
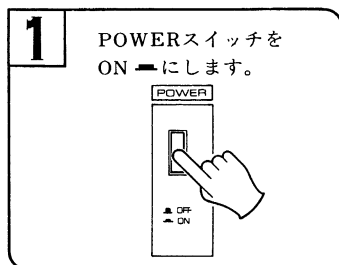
- TAPE 1とTAPE 2の使い方
 TAPE 1▶再生専用です。(テープを聞くときだけ使います。)
 TAPE 2▶録音や再生をするときに使います。


TAPE 1とTAPE 2を同時に再生したときは、
TAPE 1の音が優先されます。
- RELAY PLAY ボタンが「ON」のとき、TAPE 1を先に再生すると、TAPE 1再生中はTAPE 2は動きません。TAPE 2を再生中でもTAPE 1は動き、TAPE 1の音が優先されます。
- この製品は、カセットテープを入れて▶PLAYボタンを押すと、手前に見える面(A面)から再生を始め、そのあと、反対の面を再生します。

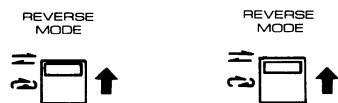
テープのリレー再生

TAPE 1を再生後、連続してTAPE 2を再生(リレー再生)することができます。
リレー再生は、A面のみのもものと、両面とも行なうものと2種類あります。

■TAPE 1のA面からTAPE 2のA面へリレー再生するには



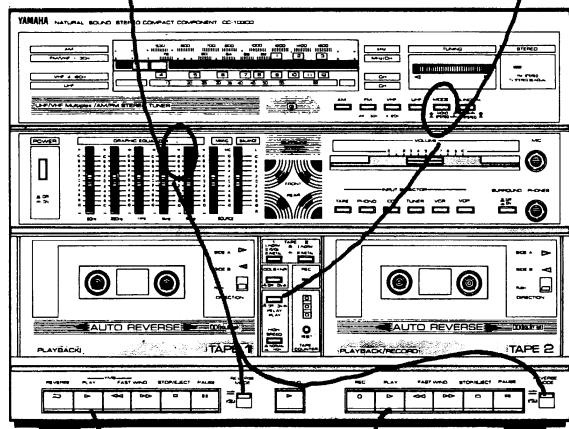
6 TAPE 1とTAPE 2 双方の REVERSE MODEスイッチを""の位置にします。



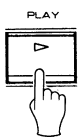
7



RELAY PLAYボタンを""ON"にします。

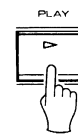


8



TAPE 1のPLAY ボタンを押します。

9



TAPE 1を再生中に、TAPE 2のPLAY ボタンを押します。

- TAPE 1・2のA面を、それぞれ再生し終わると、停止状態になります。
- B面のみのリレー再生はできません。

■ TAPE 1、TAPE 2のA、B両面をリレー再生するには


● 24ページの手順①～⑤を行なってから次の⑥～⑨の操作を行なってください。

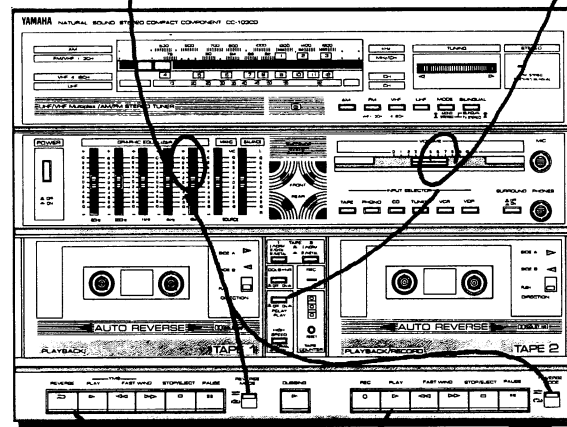
6 TAPE 1とTAPE 2 双方の REVERSE MODEスイッチを""の位置にします。



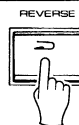
7



RELAY PLAYボタンを""ON"にします。

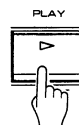


8



TAPE 1のREVERSE ボタンを押します。
(PLAYボタンも同時におります。)

9

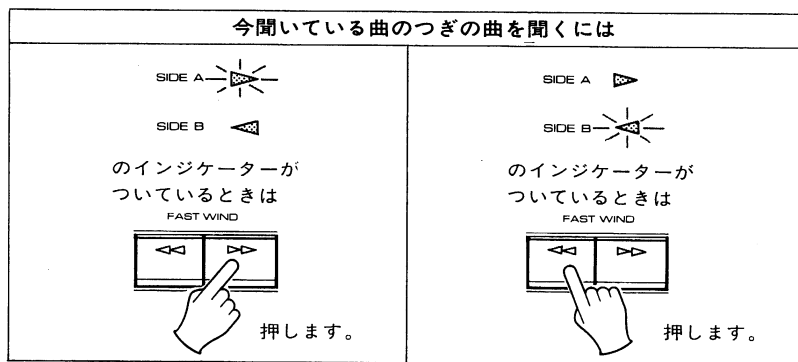
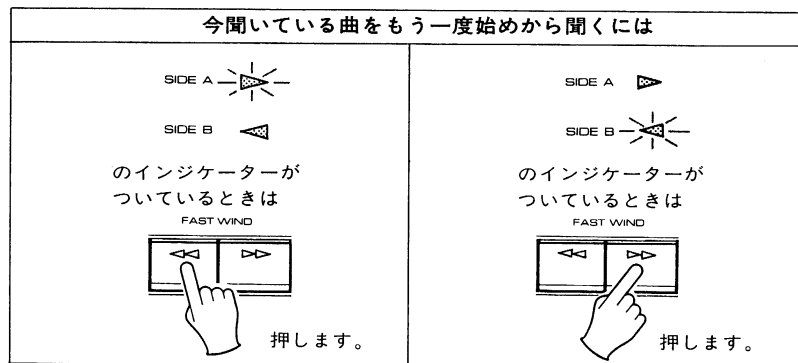


TAPE 1を再生中に TAPE 2のPLAY ボタンを押します。

- TAPE 1はSTOP/EJECTボタンを押すまで、A・B両面を連続再生します。

テープの自動頭出し演奏(YMS:YAMAHA Music Search)

自動頭出し演奏(YMS)は、TAPE 1で再生している曲の頭出しを自動的に行ない演奏する機構です。



数曲先や数曲あとの曲を頭出しするには

YMS操作で再生状態になったあと、すばやくFAST WINDボタン(◀◀または▶▶)を押します。

お望みの曲が出るまでこの操作をくり返します。

YMSが正しく動作しないときは

YMS機構はミュージックテープの約4秒間の無録音部分を見つけだすことによって動作します。

つぎのようなテープを使ったときは正常に動作しないことがあります。

- 会話、落語などで音声途切れているテープ。
- 曲全体の録音レベルが低すぎる(音が小さい)テープ。
- 曲間が短い(約4秒以下)テープ。
- 音楽でピアノシモの部分(音が非常に小さい部分)が長く続く曲や、演奏や歌声が全く入っていない部分のあるテープ。
- 曲間に大きな雑音が録音されているテープ。

メモ

- TAPE 1のREVERSEボタンを押して再生状態にしたときはYMSは働きません。
- YMS中にDIRECTIONボタンを押さないでください。(押すとYMSが解除され反対の面の再生に切り替わります。)

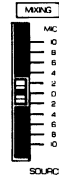
録音するには

1

15ページの“ご希望のソースを再生するには”を参照して録音したいソースの演奏または受信を行なってください。

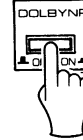
2

MIXINGツマミを“0”の位置にします。



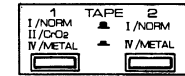
3

DOLBY NR システムで録音するときは、DOLBY NR ボタンを“ON”にします。



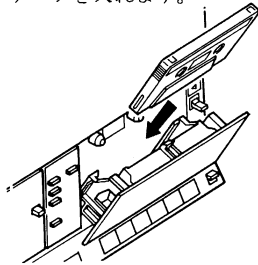
4

TAPE SELECTOR ボタンを使うテープの種類に合わせます。(☞22ページ④)



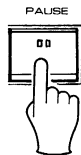
5

テープを入れます。



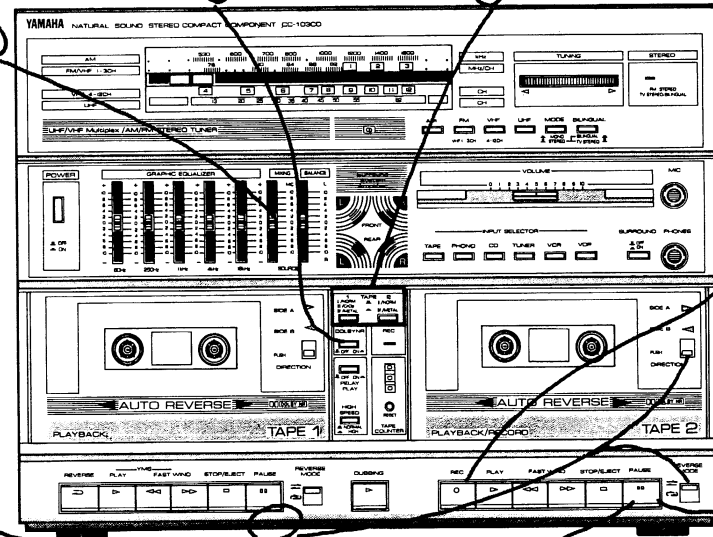
6

PAUSE ボタンを押します。



7

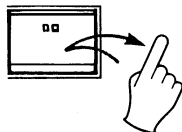
TAPE 2 の REVERSE MODE スイッチと DIRECTION ボタンをご希望の位置に切換えます。(☞11/12ページ)



8 RECボタンを押します。
(PLAYボタンも同時にお
り、録音スタンバイ状態
となります。)



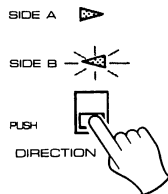
9 録音したい曲が始まる少
し前に、PAUSEボタン
を押して、録音を開始し
ます。PAUSE



- テープが最後まで巻き取ら
れると、自動的にボタンが
もどります。(フルオートス
トップ機構)
- 途中でテープを止めたいと
きは、STOP/EJECTボタ
ンを押します。

■今録音している面の反対側に録音する は(TAPE 2のみ)

DIRECTIONボタンを、録音中か録音スタンバイ中に
押します。

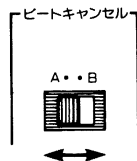


A面を録音中か録音を一時停
止しているときにB面を録音
したいときは、DIRECTIONボ
タンを押します。
◀のインジケーターが付き
ます。

B面録音中にDIRECTIONボタンを押すと、RECボタ
ンとPLAYボタンがもどり、録音が停止します。

- 録音中は、DOLBY NRボタンを切換えしないでくださ
い。録音が正しくできなくなります。

■AM放送を録音中にビート音が出たら



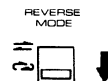
リアパネルのビートキャンセ
ルスイッチを“A”または“B”
のうち、ビート音が少なくな
る方に切換えます。

■REVERSE MODEスイッチについて

REVERSE MODEスイッチは、テープを録音中でも、
録音を始める前でも切換えることができます。



この位置にすると、今録音し
ている面が終わると、自動的
にテープが止まります。



この位置にすると、連続して
A面・B面に録音したあと、
自動的にテープが止まります。

- ◀▶の位置でB面からA面への録音はできません。

メモ

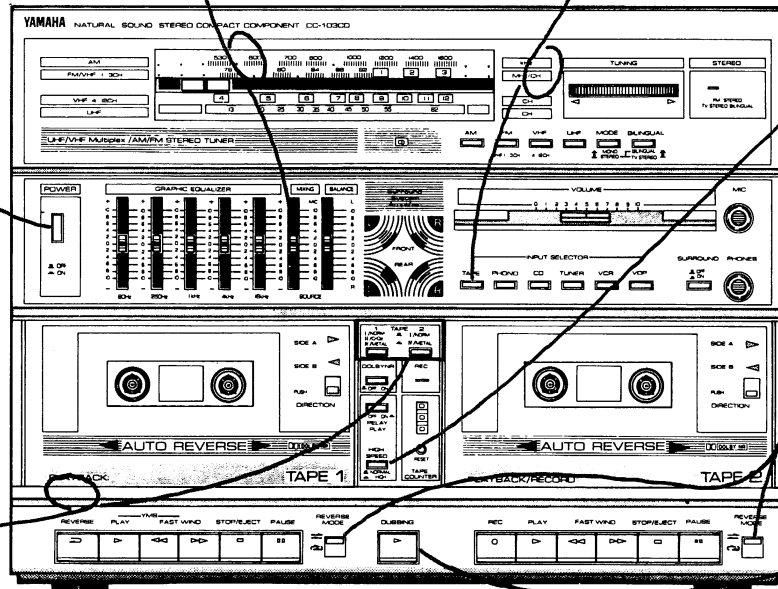
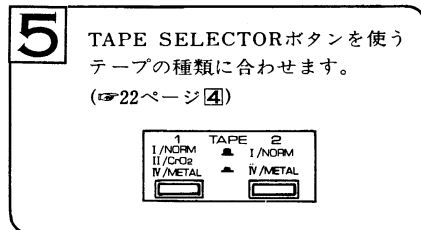
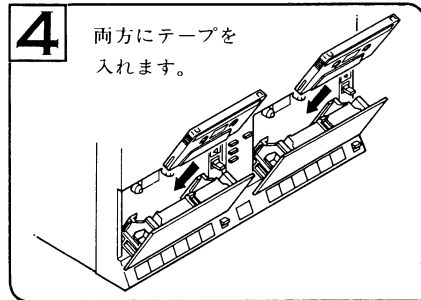
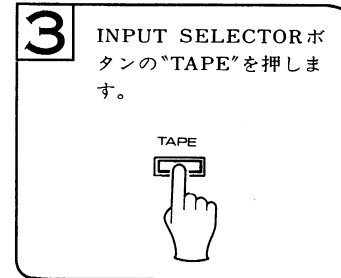
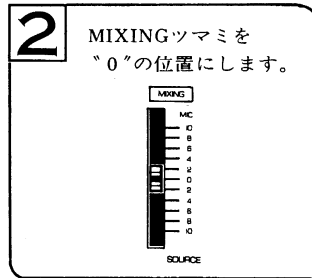
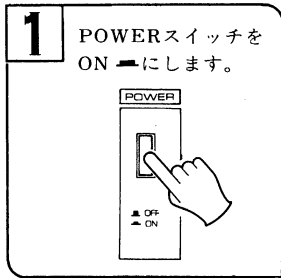
- あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 録音レベルは、自動録音レベル調整(ALC)回路によって、自動的に調整されます。録音中にVOLUMEツマミを動かしても録音には影響しません。

ダビングをするには

ダビング(複写録音)とは、テープから別のテープへ録音することをいいます。

本機は、HIGH SPEEDボタンとDUBBINGボタンを使ってTAPE 1で再生した音をそのままTAPE 2へ定速、または倍速でダビングすることができます。

ダビングのときは、TAPE 1とTAPE 2ともにA面から始まります。



6



HIGH SPEEDボタンを“**HIGH**”または“**NORMAL**”にします。
HIGHにすると倍速ダビング、NORMALにすると定速ダビングとなります。

7

REVERSE MODEスイッチを切換えます。
(☞12ページ)



8

DUBBINGボタンを押します。



- TAPE 1とTAPE 2が同時にスタートし、ダビングが始まります。

■REVERSE MODEスイッチについて

TAPE 1のA面をTAPE 2のA面にダビングするには		A、B両面をダビングするには	
両方のスイッチを“”の位置にします。		両方のスイッチを“”の位置にします。	

■テープに録音された音を消すには

録音ずみのテープに録音すると、前の録音は自動的に消され新しい録音だけが残ります。新しい録音をしないで前の録音だけを消したいときは、つぎの操作をします。

- MIC端子には何もつながないでください。

INPUT SELECTORボタンの“TAPE”ボタンを押したあと、テープをTAPE 2のカセットホルダーに入れてRECボタンを押します。

メモ

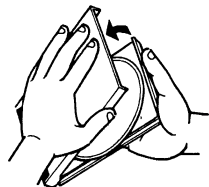
- ダビングのときはDOLBY NRボタンを押しても動きません。
- 倍速ダビング中はグラフィックイコライザーは動きません。
- RELAY PLAYボタンを“OFF”にしておけばTAPE 1再生中にDUBBINGボタンまたはRECボタンを押してもダビングはできますが、RELAY PLAYボタンが“ON”になっていると連続機能が優先されダビングはできません。
- ダビング中にHIGH SPEEDボタンを押さないでください。複写録音が正しく働かないことがあります。
- 両面録音が終了してもTAPE 1は再生状態です。再生をやめるときは、STOP/EJECTボタンを押します。

CD(コンパクトディスク)の取り扱い方

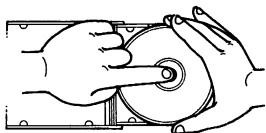
マークのあるCDをお使いください。

ケースからの取り出しかた

1. 右手でケースの両横側面を支え、左手で上下側面を持ってフタを開きます。



2. 左手の指先でケースのセンターホルダーを押さえ、右手でCDを持ち上げます。



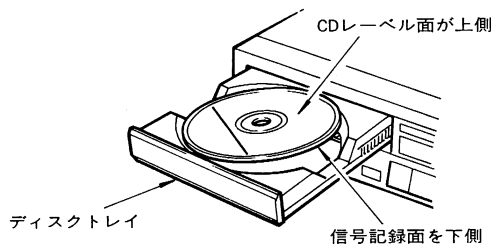
3. できるだけCDの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。



CDのセット

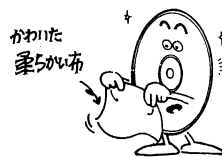
CDのセットは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。(CDの演奏は片面だけです)

市販のCD用スタビライザーなどの使用は、ディスクを傷つけるだけでなく故障の原因になることがありますのでご使用にならないでください。



取り扱いの注意

- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布などで軽く内側中心から外側へ放射状に拭いてください。CDには、レコード盤のような音溝はありません。ほこりや汚れがついたら柔らかい布で軽く拭き取るだけで充分です。多少のほこりや汚れは、音質には全く影響ありません。



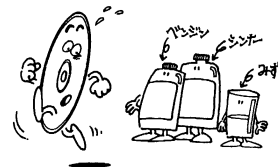
- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。



- 演奏を終わったCDは必ずケースに入れて保管してください。



- レコードスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。CDはプラスチック製です。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

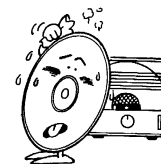


- 曲げたりしないでください。



- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所へ長時間置かないでください。

CDを高温な場所に長時間放置すると変形などの原因となります。



- 表面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。



CDを演奏するには

電源を入れる前に、必ず輸送ネジ(⇒3ページ)が取りはずされていることを確認してください。

1 POWERスイッチを押します。
“----”が約3秒間点滅した後、“DISC”が点灯表示されます。

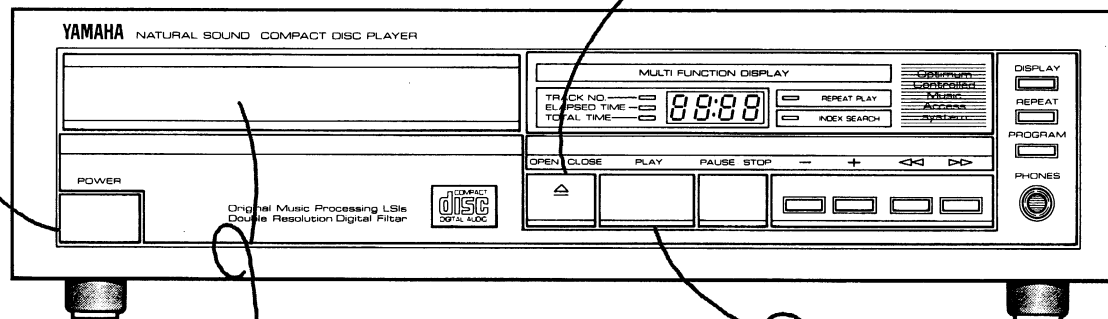
点滅 約3秒後 文字点灯

--- ⇒ DISC

(ディスクがセットされてないことを示します。)

2 OPEN/CLOSEキーを押します。
ディスクトレイが出てきて“OPEN”が表示されます。

OPEN



3 CDをケースから取り出し、レーベル面を上にしてディスクトレイに入れます。

レーベル面

ディスクトレイ

4 PLAYキーを押します。
演奏が始まり、次のように表示します。

PLAY ⇒ 1

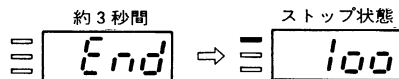
- POWERスイッチのON、OFFを極端に早く繰り返しますと、内部動作が正しく行なわれないことがあります。“d 15c”表示中はOPEN/CLOSEキーだけを受け付けます。
- ディスクトレイが動作(OPEN動作)している途中で止めますと、約4秒後にはそのままの状態です。このような場合は、もう一度OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを開けてください。
- “OPEN”表示中は、OPEN/CLOSEキーのほかにPLAYキー、“+”キー、“-”キー、“<<”キー、(インテックスNo指定)“>>”キー、(インテックスNo指定)の操作が可能となります。
- TOTAL TIMEを表示している状態でPLAYキーを押すと、TRACK NO.表示に変わります。
- CDにキズ等があると、演奏開始時間が遅れたり、途中から演奏することがあります。
- 偏芯したCDはCDプレーヤーの内部で異音を発生することがありますので、ご使用にならないでください。

ご注意

- ディスクトレイ部には、不要物などを入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクトレイが動作している途中は、手で無理に開閉しないでください。

演奏が終わったら

最後の曲を演奏し終わると、“End”を約3秒間表示した後、1曲目の頭でストップ状態になります。次に示す方法でCDを取り出します。



- ① OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを開けます。
- ② CDをディスクトレイから取り出し、ケースに収めます。
- ③ OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを閉めます。

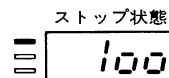
※ディスクトレイを軽く押すかPLAYキーを押してもディスクトレイを閉めることができます。

演奏を止めるには



2回押す

PAUSE/STOPキーを2回押します。演奏がストップし、最初の曲の頭で待機します。
※ディスプレイはTRACK NO.の表示になります。



演奏を一時停止するには



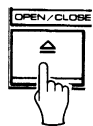
PAUSE/STOPキーを1回押します。演奏している所でポーズします。ディスプレイはTRACK NO.を表示しているときとELAPSED TIMEを表示しているときでは表示内容が次のように変わります。

※演奏を再開するときは、PLAYキーを押してください。

TRACK NO. 表示のとき ELAPSED TIME 表示のとき



コンパクトディスクを取り出すときは



ディスクトレイが開き、
ストップ状態になります。



OPEN/CLOSEキーを押します。“OPEN”を表示し、ディスクトレイが出てきてからCDを取り出してください。

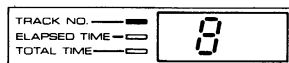
- 本機をご使用にならないときは、ゴミやホコリを防ぐためディスクトレイを閉めておいてください。

■ディスプレイ表示について

DISPLAYキーによってディスプレイの表示内容を切り替えられます。表示内容は、次のとおりです。

●曲番(TRACK NO.)の表示

曲番を表示します。



例：この場合は8曲目です。

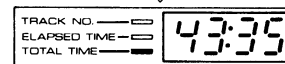
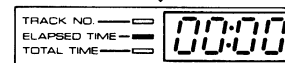
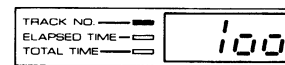
●総演奏時間(TOTAL TIME)の表示

ストップ状態のときに、



2回押す

ストップ状態

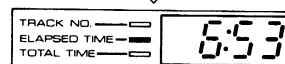


例：43分35秒

ストップ状態のとき(PLAYキーを押す前)にDISPLAYキーを2回押してください。上のように表示が変化し、分秒単位で総演奏時間を表示します。録音するまえなど、総演奏時間をあらかじめ調べるのにご利用ください。

なお、プログラム時は、プログラムされている曲の総演奏時間を表示します。

●経過時間(ELAPSED TIME)の表示



例：6分53秒

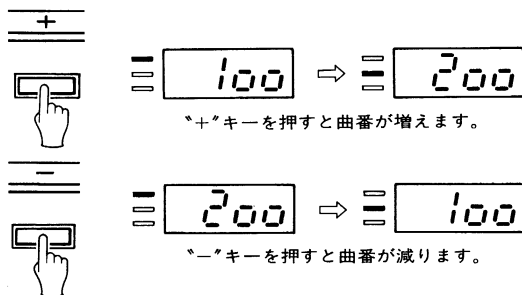
DISPLAYキーを1回押してください。各曲ごとの経過時間を分秒単位で表示します。演奏中はDISPLAYキーを押すごとにTRACK NO.とELAPSED TIMEを交互に表示します。

ご注意

- TOTAL TIMEは演奏ストップ状態のときのみ表示されます。演奏中およびポーズ中はTRACK NO.とELAPSED TIMEのいずれかを表示することができます。

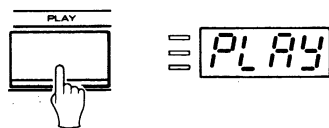
CDの選曲をするには

①“+”キーと“-”キーによってお好みの曲番をディスプレイに表示させます。



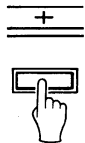
②PLAYキーを押します。

次のように表示され、選んだ曲番から演奏がはじまります。



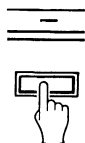
■次の曲の頭出し

演奏中に“+”キーを押すと、いま演奏中の曲を飛ばして次の曲の頭へ移り、演奏を始めます。ポーズ中に“+”キーを押すと次の曲の頭でポーズします。



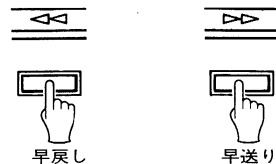
■いま演奏している曲の頭出し

演奏中に“-”キーを押すと、いま演奏している曲の頭へ戻り、演奏を始めます。ポーズ中に“-”キーを押すと、その曲の頭に戻ってポーズします。



■早戻し・早送り

演奏中またはポーズ中に、“<<”キーを使って早戻し、“>>”を使って早送りができます。



●演奏中のとき(音出しサーチ)

“<<”キーまたは“>>”キーを押し続けると、最初の3秒間は低速で早戻し・早送りして、それ以上押し続けると、高速で早戻し・早送りします。動作中は、再生音が小さな音(1/4)で聴こえます。聴きたい位置で指を離すと、そこから演奏が再開されます。

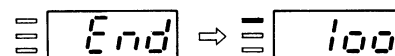
●ポーズ中のとき

“<<”キーまたは“>>”キーを押し続けると、高速で早戻し・早送りします。指を離すと、その位置でポーズ状態になります。

●ストップ状態のとき

“<<”キーまたは“>>”キーを押すと、インデックスの選曲となります。(次ページを参照してください。)

“>>”キーを押し続けて、コンパクトディスクの最終曲の終りまで早送りしますと、自動的にストップ状態になり、次のように表示します。

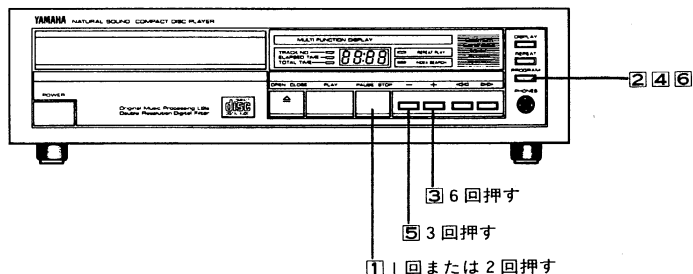


CDのプログラム演奏

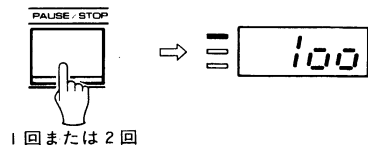
- CDに収録されている曲の中から、お好みの曲を選び、順番を並べ替えて自動演奏することができます。
- 最大9曲までプログラム可能です。

■プログラムセットのしかた

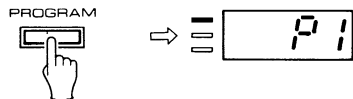
例：6曲目、3曲目の順番でプログラムするとき。



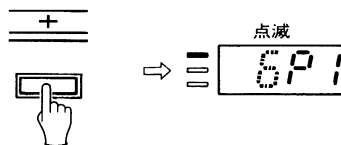
①演奏中のときはPAUSE/STOPキーを2回、ポーズ中のときはPAUSE/STOPキーを1回押してストップ状態にします。



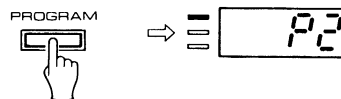
②PROGRAMキーを押します。曲番の入力待ち状態となります。



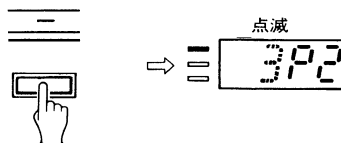
③“+”キーを6回押します。“6”が点滅表示されます。



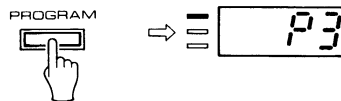
④PROGRAMキーを押します。6曲目がセットされ、ディスプレイに“P2”が表示されます。



⑤“-”キーを3回押します。“3”が点滅表示されます。



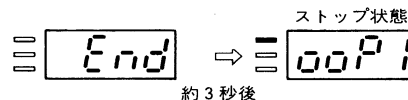
⑥PROGRAMキーを押します。3曲目がセットされ、ディスプレイに“P3”が表示されます。



これで6曲目と3曲目のプログラムは終了しました。

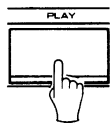
※このとき、DISPLAYキーを押してTOTAL TIME表示にすれば、プログラムの総演奏時間がわかります。

※同様にしてプログラムは“P9”までセットすることができます。“P9”までプログラムしたときは“END”表示してストップ状態になります。

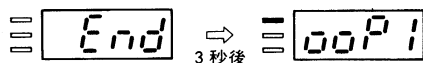


■プログラムセットが終わったら

PLAYキーを押します。6曲目、3曲目の順番で演奏されます。



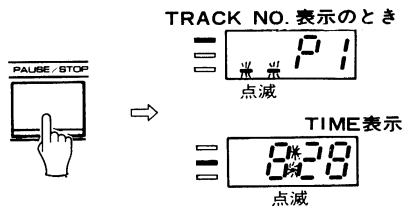
プログラム演奏が終わると自動的にストップ状態(プログラムNO.1で待機している状態)になります。



■プログラム演奏を止めるとき…

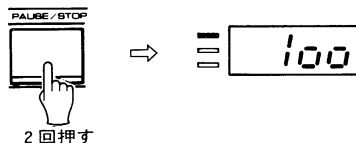
●ポーズするには

PAUSE/STOPキーを2回押します。そこから再び演奏を始めるときは、PLAYキーを押してください。



●ストップするには

PAUSE/STOPキーを2回押します。プログラムNO.1で待機します。



■プログラム演奏中の頭出し操作

“+”キーまたは“-”キーを押すと、プログラムされている曲の頭出しをすることができます。

※ストップ状態では頭出しを行なうことはできません。演奏または、ポーズ状態にしてください。

■プログラム演奏中の早送り、早戻し操作

“<<”キーまたは“>>”キーを押すと、プログラムされている曲に関係なく早送り・早戻しができます。

※但し、プログラムされていない曲に早戻し・早送りした場合、その曲を演奏し終わると、プログラム曲番を1つ上げてプログラム演奏に戻ります。

■プログラム内容のチェック

ストップ状態でPROGRAMキーを1回押すと、“P1”の内容が呼び出されます。

PROGRAMキーを押すごとに、プログラム内容が呼び出されます。

■プログラム内容の変更

ストップ状態でPROGRAMキーを押し、変更したい曲番を呼び出します。次に、「プログラムセットのしかた」と同様の方法で、前のプログラムの上にセットします。前のプログラムは消えて新しいプログラムとなります。

※プログラムされている曲数を減らすときは、プログラムを一旦解除して、改めてプログラムしてください。

■プログラムの解除

OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを開くと、すべてのプログラムが解除されます。また電源を切っても同様に解除されます。

※インデックスのプログラム演奏はできません。

※プログラム総演奏時間が99分59秒を越えたときのTOTAL TIME表示は、100分を除いた残り時間を表示します。

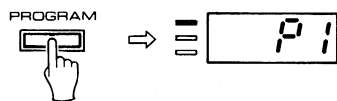
※21曲以上入っているコンパクトディスクを使用して、TRACK NO. が20以上の曲番をプログラムしたときは、TOTAL TIMEは表示されません。

CDのリPEAT演奏

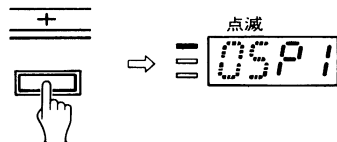
■ 1曲リPEAT

例. 5曲目をリPEAT演奏するとき。

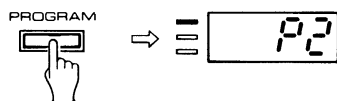
PROGRAMキーを押します。



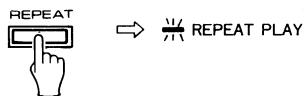
“+”キーを5回押します。ディスプレイに“5”が点滅表示されます。



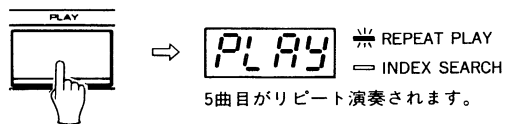
PROGRAMキーを押します。5曲目がP1にプログラムされ、ディスプレイに“P2”が表示されます。



REPEATキーを押します。5曲目のリPEAT演奏が指定され、REPEAT PLAYインジケーターが点灯します。

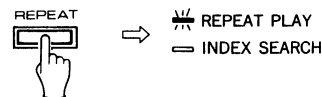


PLAYキーを押します。

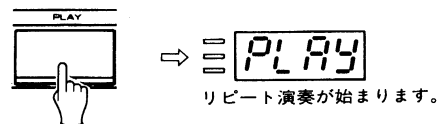


■ 全曲リPEAT

① REPEATキーを押します。



② PLAYキーを押します。



※演奏中、ポーズ中にREPEATキーを押した場合も、全曲リPEATになります。

■ プログラムリPEAT

① 36/37ページの「プログラム演奏」を参照して、お好みの曲をプログラムします。

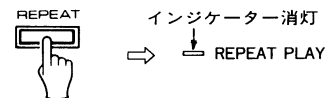
② REPEATキーを押します。

③ PLAYキーを押します。



■ リPEAT解除

リPEAT演奏を解除するときは、REPEATキーを押してください。インジケーターが消灯します。



CDのインデックスサーチ

■インデックスとは？

ひとつの曲をさらに細かい部分に分けて番号をつけたものです。演奏する前にコンパクトディスクの解説書によってお確かめください。

■インデックスの頭出し

インデックスが設定されている曲の頭でポーズ状態にして、“▷”キーを押すことにより、お好みのインデックスの頭出しができます。インデックスNO.を戻すときは“◁”キーを押してください。

例. 2曲目のインデックス3を演奏するとき

1 曲目		2 曲目		
インデックス1	インデックス2	インデックス1	インデックス2	インデックス3

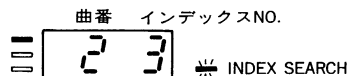
↑
ここから演奏を
はじめます。

①ストップ状態にします。

②“+”キーを1回押して2曲目を指定します。曲番を戻すときは“-”キーを押します。

③“▷”キーを3回押してインデックス3を指定します。

インデックスNO.を戻すときは、“◁”キーを押します。



点灯(インデックスが指定されていることを表示)

④PLAYキーを押します。

インデックスを指定した場所から演奏を始めます。

TRACK NO. 表示のとき ELAPSED TIME表示のとき



- CDに記載されているインデックス番号より大きな数を指定した場合、最終のインデックス番号のところを演奏します。
- インデックス演奏のときは、曲の少し前から再生することがあります。
- インデックスの頭出しは、1回演奏すると自動的に解除されます。
- インデックス番号が記録されていないCDの場合、インデックスを指定しても曲の最初から演奏します。
- インデックスの頭出しには、多少時間がかかることがあります。

CDのタイマー演奏

別売のオーディオタイマーと組み合わせると、希望の時間に演奏を始めることができます。

①CDプレーヤーの電源プラグをセンターの連動コンセントに接続します。

②センターの電源プラグをタイマーの連動コンセントに接続します。

③CDプレーヤーの電源を切りCDをセットします。

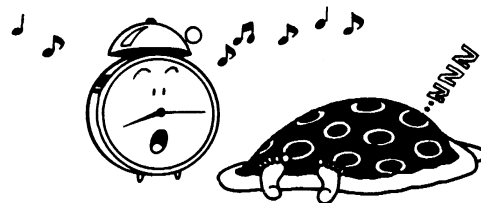
センターの電源スイッチを入れてINPUT SELECTORをCDにし、音量を調節します。

タイマーで演奏開始時間と終了時間をセットします。

(このとき、各機器の電源が切れたことを確かめてください。)

※タイマーで時間をセットする方法は、タイマーの取扱説明書をご覧ください。

以上でタイマーにセットした時刻がくると自動的に演奏が始まります。



カセットテープについて

市販のカセットテープには多種多様の製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通に使用できます。

■カセットテープの録音時間による分類

カセットテープの型名は、両面往復時間を“分”単位で表示してあります。

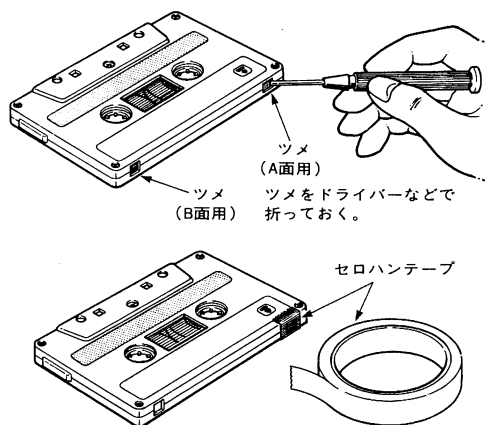
種 類	録 音 再 生 時 間		テ ー プ の 長 さ (m)
	片 道 (分)	往 復 (分)	
C-46	23	46	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135

※C-120テープは、テープが薄いため音質面でも音楽録音には適当ではありません。できるだけ上記のテープをご使用ください。

■録音内容の保存

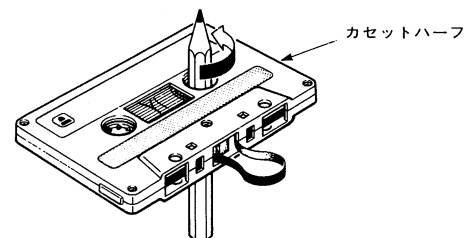
カセットハーフには、大切な録音をあやまって消さないように消去防止用の穴があります。録音後、この穴のツメをドライバーなどで取り去ると重ねて録音できませんから、録音内容をいつまでも保存することができます。

また、ツメを折ったテープに再び録音したい場合には、セロハンテープなどで穴をふさいでください。



■テープのたるみを直す

テープがとび出したり、たるんだままご使用になりますと、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみついたりする原因となります。こんな場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差込んで巻き取り、テープのたるみを直してからご使用ください。



■カセットテープの保管は

カセットケースに入れ、直射日光(高温)、湿気および磁気のあるところ(テレビやスピーカーの近く)を避けて保管してください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消してしまいます。

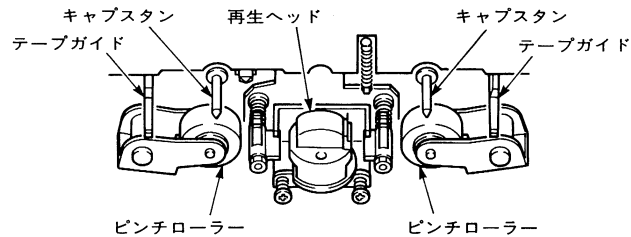
デッキ部のお手入れ (未長くご愛用 いただくために)

デッキを長時間ご使用になつていきますと、キャプスタン、ピンチローラー及びヘッドの汚れや帯磁が原因で、音がかすれたり、ノイズが入ったり、音がふるえたりしてきます。市販の綿棒、クリーニング液やクリーニングテープ、ヘッドイレーサーをご使用になり、定期的にクリーニングや消磁をしてください。

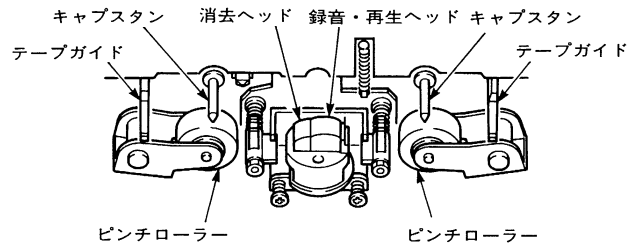
クリーニングはおよそ10時間ごとに、消磁は20~30時間を目安に行なってください。また特に大切な録音をするときや、古いテープを使った後もクリーニングしておきましょう。

- ヘッドのクリーニングの際は、ヘッドに無理な力を加えないようご注意ください。また、消磁の際は、ヘッドイレーサーの説明書を充分参照してください。

TAPE1



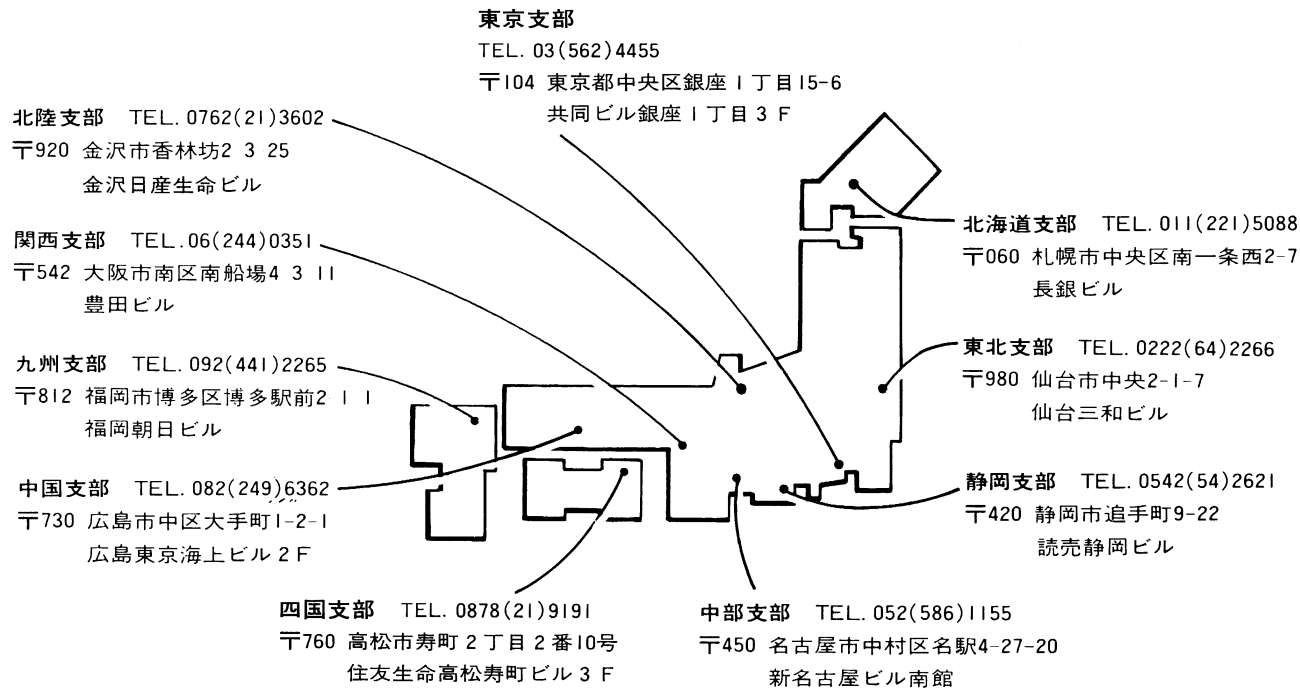
TAPE2



著作権について

あなたが、本機で録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■日本音楽著作権協会



故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。

そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

	どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
チューナー部	FM放送やテレビ音声に“ザー”という音が入る	TV/FMアンテナを“近”の端子につないでいる	“遠”の端子につないでください
		アンテナの方向が悪い	アンテナの方向を変えてください
	AM放送に“ザー、ビー、シー”などの音が入る	CDプレーヤーやテレビなどのそばで同時に使用している	CDプレーヤーおよびテレビを消すか、または本体を離してください
デッキ部	録音、再生時にテープが回らない	テープがたるんでいたため、ピンチローラーにまきついている	テープを使用する前にテープのたるみを鉛筆などでとる
	録音できない	カセットテープ後部のツメが折られている	カセットテープを交換するか、ツメの部分セロハンテープなどでカバーしてください
		ヘッドが汚れている	ヘッドを清掃する
	音がかすれる 音飛びがする	ヘッドが汚れている ヘッドが帯磁している テープ走行面が汚れている	クリーニングテープでヘッドを清掃してください ヘッドイレーサーでヘッドの消磁をしてください 新品テープと交換してください
	再生の音がひずむ	テープがいたんでいる(片伸びなど変形)	新品テープと交換してください
	再生音の音質が悪い	DOLBY NRボタンのセットが違っている	録音したときと同じ状態にDOLBY NRボタンをセットしてください
	左右のバランスが悪い	ヘッドが汚れている	ヘッドを清掃する
雑音が多い	ヘッドが汚れている ヘッドが帯磁している 古いテープを使用している	クリーニングテープで清掃してください ヘッドイレーサーでヘッドの消磁をしてください 良質なテープと交換してください	

	どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
デッキ部	録音または再生の途中でストップしてしまう	テープがゆるんでいたり、飛び出していた テープに折れ、キズがある 本機フロントパネルに直射日光などの強い光があたっている	鉛筆などでカセットハーフのリール軸をまわして、テープを張り直してください 強い光をあてないようにしてください
	一曲頭出しができない	無録音部分が短い 曲の途中で録音レベルが非常に低い部分がある エアチェックなどで会話が録音されている	一曲頭出し機能は、無録音部分が4秒以上ないと働きません
CDプレイヤー	CDを入れても演奏出来ない	CDが裏返しになっている	CDのラベル面を上にして入れてください
		CDがひどく汚れている	クリーニングしてください
	音が出ない	センターとの接続が不完全	接続を確認してください
		センターの操作が間違っている	センターのスイッチの位置を確認してください
	音飛びする	プレーヤーに震動やショックを与えている	設置場所を変えてください
		CDがひどく汚れている	クリーニングしてください
ハム音が出る	ピンプラグの接続不良	ピンプラグをしっかりと差込み直してください	
スピーカー	スピーカーから音が出ない	スピーカーコードが端子からはずれている	コードをしっかりとつないでください
		ミキシングつまみが“MIC”になっている	“SOURCE”にしてください
	低音がでない。不自然な音で音像が安定しない	スピーカーの極性(+、-)が合っていない	コードを正しくつないでください

参考仕様

アンプ部

回路方式	OCLアンプ
実用最大出力	25W+25W(EIAJ)10%THD
全高調波歪率	0.2%(8Ω、5W出力時)

チューナー部

受信周波数	TV(UHF):13~62CH TV(VHF):4~12CH FM/TV(1~3CH):76~108MHz AM:530~1,605kHz
実用感度	TV(UHF):12.5 μ V(SN30dB/75Ω) TV(VHF):5.5 μ V(SN30dB/75Ω) FM/TV(1~3CH):3.5 μ V(SN30dB/75Ω) AM:400 μ V/m(バーアンテナ)

デッキ部

トラック方式	コンパクトカセットステレオ
録音方式	交流バイアス(TAPE2のみ)
消去方式	交流消去(TAPE2のみ)
ヘッド	(TAPE1) 再生ヘッド×1 (TAPE2) 録音・再生ヘッド×1 消去ヘッド×1
モーター	電子制御DCモーター×2(TAPE1×1、TAPE2×1)
テープ	ノーマル/メタル(TAPE1、TAPE2)
早巻時間	約110秒(C-60テープにて)
周波数範囲	ノーマルテープ 30~13,000Hz(EIAJ) メタルテープ 30~15,000Hz(EIAJ)
S/N比	ドルビーNR OFF:57dB(EIAJ、メタルテープ) ドルビーNR ON:67dB(EIAJ、メタルテープ)

総合

入力端子	マイク:4mV(10kΩ、推奨マイクインピーダンス600Ω) 直径6.3mm 標準ジャック プレーヤー:150mV(47kΩ) CD入力:300mV(47kΩ) VCR・VDP入力(補助入力):300mV(47kΩ) RCAピンジャック
出力端子	ヘッドホン:(8~32Ω) 直径6.3mmステレオ標準ジャック フロントスピーカー:(8~16Ω) リアスピーカー:(8~16Ω)
その他の端子	TV/FMアンテナ(遠・近) AMアンテナ アンテナアース
電源	100V AC、50/60Hz
消費電力	AC64W(電気用品取締法にもとづく)
最大外形寸法	340(幅)×256(高さ)×321(奥行)mm(EIAJ)
重量	約6.6kg

スピーカー

型式	バスレフ型2ウェイスピーカーシステム
スピーカー	16cm(丸型)フリーエッジウーハー 5cmコーンツイーター
再生帯域	60Hz~20kHz
最大入力	40W
定格入力	25W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル	88dB/w/m
内容量	9.2ℓ
最大外形寸法	225(幅)×347(高さ)×202(奥行)mm(EIAJ)
重量	約3.2kg(1台)×2

CDプレーヤー

■型式 コンパクトディスク・デジタル・オーディオ・システム

■オーディオ特性

周波数特性 5~20kHz $\begin{matrix} +0.5 \\ -1.0 \end{matrix}$ dB
高調波ひずみ+雑音 0.004%以下1kHz(EIAJ)
S/N比 98dB(EIAJ)
ダイナミックレンジ 95dB(EIAJ)
ワウ・フラッター 測定検知限以下
チャンネル・セパレーション 90dB以上(1kHz)
出力電圧 2Vr.m.s.(フルスケール)
出カインピーダンス 1k Ω
ヘッドホン出力電圧(8 Ω 負荷) 150mV

■方式

光ピックアップ 3ビーム・レーザー
エラー訂正方式 CIRC、2重エラー訂正方式
D/A変換 16ビットリニア
フィルター デジタルフィルター+(3次アクティブフィルター)

■機能

頭出し “+”・“-”キーによる順次頭出し
インデックス選曲 “<<”・“>>”キーによる頭出し
音出しサーチ(演奏時) “<<”・“>>”キーによるサーチ2段階スピード自動切換
総演奏時間表示 DISPLAYキーにて(ストップ時のみ)
プログラム機能 9曲ランダム
リピート 全曲またはプログラム全部のリピート

■総合

電源 AC100V 50/60Hz
消費電力 10W
外形寸法(W×H×D) 340×92×290(mm)
重量 3.5kg

付属品

- FM/TV用アンテナ×1
- 出力コード×1(CDプレーヤー専用)



これは電子機械工学会「音のエチケット」
キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなて楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(0222)36-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(0252)43-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 日本楽器宮竹工場内北側 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

ステレオ事業部国内営業部 TEL.(0534)60-3421

管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。